

# 郷

平成元年  
10月号

# 友

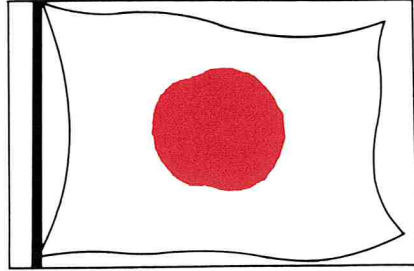
1989  
October

平成元年十月一日（在月一）発行  
第三十五卷第十七号（通巻四一六号）



—自然美散策(利尻富士秀景)—(解説表 2 下段)

# 全国理事会の 審議の結果を 今後の活動に 即生かそう!!



## 表紙写真の解説

写真家 宝蔵寺 忠

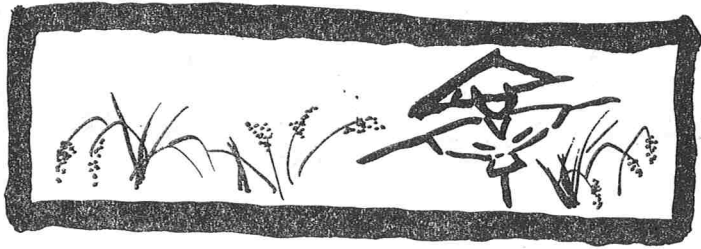
### 自然美散策(利尻富士秀景)

北海道宗谷支庁利尻郡利尻町

日本海の最北部が、利尻礼文サロベツ国立公園である。その利尻島は美しい裾を引いてそびえる利尻山と呼ぶ円錐形成層火山そのものが島となったもので、利尻山は別称を利尻富士の名が示すように秀麗な山容をもち、中腹までは樹林帯をなし、五合目の見返公園展望台から山頂にかけてはハイマツの緑の間にリシリソウ・リシリシノブなどの珍らしい高山植物が群落、咲き乱れてその数は三百十種にもおよんでいる。展望台からは沓形港や沓形の街並を眼下に納め、遠くは礼文島の全容を望み、日本海を染める夕陽は素晴らしい眺望である。利尻富士の標高は一七一九メートルで、登山コースは鬼脇・沓形・鷺泊の三コースがある。この中鷺泊コースが一番ポピュラーで、婦人・子供でも楽に登れる。また沓形コースは登山口から十軒あるが、最近五合目の見返台公園まで自動車道路が新設され、一番楽な登山コースになった。ちなみに五合目から頂上までは徒歩五軒弱の道程である。

利尻島の開発の歴史は古く、貞享元年(一六八四)利尻・礼文は宗谷場所に属したが、明和二年(一七六五)独立場所となり、沓形がニシン漁場の中心集落となったに始まる。明治に入ってから漁場開発はすすみ、日本海の北に位置するが対馬暖流により水産資源も豊富で、現在も漁業が島の主産業となっている。

郷友目次(10月号)



巻頭言.....(2)

昭和神宮創建と殉死者.....小島 末喜(3)

防衛態勢の確立につき提言.....青木 守夫(6)

北京天安門事件に対する我が日本の対応を訴う.....扇 貞雄(8)

天安門の惨劇に想う.....森本 真章(11)

明日の日・米対立を憂える.....斎藤 忠(13)

軍事常識——空母物語(最終回).....佐藤 文夫(17)

「随想」世界の新情勢と日本の対応.....越智 誠一(19)

戦いの九原則(その4).....武岡 淳彦(21)

祖国日本に愛と誇りを持つ子を育てる(その3).....多田三重子(25)

イスラエル事情.....青井 昭(29)

八月十五日を国民の休日に.....坂田 次男(33)

世相瞥見.....岩政 寛隆(34)

「郷友オピニオン」(崎山茂樹・池上巖・加藤武徳・杉田一次).....狩野 信行(41)

現代に見る間接侵略・革命(十六).....八木 正忠(45)

随想(その2).....佐々木信四郎(48)

郷土の城(26).....

自衛隊だより.....

新隊員の日(121)(え・柏木康武).....牧野 良祥(54)

地方だより(石川・東京・山梨).....

郷友基金醸金者ご芳名(新・4回目).....

俳壇・歌壇・柳壇.....

編集後記.....(68)

参議院選挙結果の齎らすもの

会長 堀江 正夫

参議院選挙における自民党惨敗の原因は、リクルートによる政治不信に、消費税と農政と宇野スキャンダルが相乗的に作用した結果である。

更にいえば、自民党のケジメ処理の甘さと、防勢一点張りの戦術に対し、社会党の、台所経済学の、理論よりムードのマドンナ思考による作戦の勝利でもあった。

これによって、戦後の今日を築きあげてきた自民党は、図り知れない一大痛撃を蒙り、少なくとも向う六年間は、その内外政策にも大きな影響を受け、国内政局も、一挙に混乱、不透明、不安定の時代を迎えることになった。

これが来るべき衆議院選挙で、万一にも自民党が過半数を割るということにでもなれば、日本の将来は更に深刻最悪の事態となる。

国内的には、かつての美濃部都政の国政への登場となり、国際的には、日米関係の悪化、国際的孤立化、ソ連への北方領土問題を棚上げにした融和政策へと進む可能性が生ずるからである。

いうまでもなく、このような政権の登場は、正にわが連盟の理念や活動方針とは、真向から相反するものである。

問題の基本はいうまでもなく政治にある。特に自民党は、しっかりと腰を据えて、適切な対応をしなければならぬ。これが総ての前提である。

その最大のポイントは、衆議院選必勝のために万全の凡ゆる手を打つことであるが、同時に、頑なに反自民に走っている公、民両党との関係を、再構築する努力も必要であろう。わが連盟はもとより、本質的には日本の将来を思う愛国的な精神団体である。しかし現情は、わが連盟の存立の意義さえも失わせるかも知れない非常の事態である。

今後われわれは具体的に如何に行動すべきか、国家民族のために、会員各位の積極的なご意見を頂きたいものと熱望してやまない。



# 昭和神宮創建提唱と殉死者

小島 末喜

(海兵七二期)

(1)、茨城県勝田市高場の銚香取神社裏の林中で、同市津田二七一二ノ四、照沼与七(七六)氏が縊死していたのを、一月八日午後零時半頃、通りかかった人が見つけ勝田署に届け出た。近くの地面に靴とジャンパーがきちんと並べてあり、ポケットには「大元帥陛下の股肱の臣たる一兵士としてお供をお許し下さい」と書かれた便箋が入っていた。元海軍少尉で、七日の午後一時前、家族と昼食後「ちよっと出掛ける」と言ってお出されたものという。

(2)、また和歌山県海草郡野上町梅本一二九、上馬之助(八七)氏が、一月七日午後一時半頃、自宅の納屋で縊死していたのを、長男(五五)が見つけ海南署に電話通報した。遺体の足元に「陛下の崩御にあい、お伴する」旨の遺書が残されていた。家人によると、この日午前十時頃テレビのニュースで陛下の崩御を知ったもの。昼食時に姿を見せないので不審に思つて長男が捜したのであった。軍隊歴があり陛下と同年生まれであることを誇りとしていたという。

右の二件とも大手の新聞が紙面の片隅に小さな見出しで報道したのだが、他にも密かに殉死した臣民が、数名あるようだ。後者の告別式には堀見一郎氏、渡瀬修吉氏(月刊回天発行の国土)らが参列し、また渡瀬氏を世話人代表とする「紀州人勤皇派の集い」が一月八日和歌山市で開催され、この忠霊を偲んだ。

思うにご不例百十一日に及ぶ御いたつき、み悩みに對しては、「醜の己が身に替えまく欲りする国民」が少なくなかつたに違いなく、殉死者は草芥の代表である。

(3)、昨年、島根県松江市出身の京都同志社大の学生が、天皇崇慕の辞世數首を残し京都御所のお庭の片隅で自殺した。この青年、泉下に前駆のお供仕らん、としたのであらう。

(4)、また栃木県芳賀郡生まれの書道師範日氏四九歳は「天皇陛下のご平癒を熱禱し奉る」の書とか辞世の和歌などを残し、山口県徳山市沖大津嶋にある人間魚雷回天の発射基

地跡で十月二十七日に入水、九日後、対岸の四国の海に遺体が浮いた。

(5)、又、東京では都内文京区あたりの或る公園で付近居住の或る元陸軍中尉が「昭和天皇に殉死し奉る」の遺書を握ったまま殉死しているのが、発見されたと大喪前後の頃サンケイ新聞に小さく報道されていた。

外にも報道されていない殉死者は全国に何人もいるであろう。

歴史では徳川將軍家光に殉死を願ひ出て許されて殉死した小姓出身で十一万石の老中堀田正盛があり、又当時の將軍・大名にも殉死者は数多い。

乃木大將は明治天皇に殉死して、全国民から敬慕され、乃木神社に神として祀られた。

昭和天皇の御苦労と盛徳は大きかった。現在の大繁栄は「大東亜戦争という陣痛の亡国の危機」を見事に乗り切った賜だが、昭和天皇御一人の御努力があつてこそ出来たのである。御平癒祈願の記帳に約八百万人に達する国民が赴いた事は聖徳の然らしむる処で、その底辺にはかかる「殉死者」迄もあつた事でさこそと偲ばれ、国民からは今は問題視されていないが、貴重な事である。その孤忠をあわれみ後世に語り継がるべき事である。

世界の敗戦国の王室は国民により追放や処刑されるのが

通例になつてゐるのに、独り日本のみ全く国民は微動だにもせず、鞏固以来の伝統は脈々と健在が顕現された。めでたい事である。

此の敬慕は明治天皇の崩御時にも劣らないし、御聖徳は明治天皇に継ぐべき御徳である。

明治神宮が創建されたから、昭和神宮の創建も当然で、国民齊しく賛同するであらう。

明治天皇や東郷元帥等生存中に祀られた社は全国に五十以上ある。

よつて、私は、御在世中の昭和六十三年に天皇の「生祀」をすべく「生祠」を宮崎県日向市美々津海岸に私が創建した。天孫降臨を明かにする「天降(あも)り日の宮」の境内に、創建し、奉斎した。(高さ六尺写真)崩御後は、「昭和神宮元社」とする。将来明治神宮につぐ大社を東京近郊に建設すべく、全国的規模で「昭和神宮創建奉賛会」を作る事にならう。既に私は「同発起人会」の会合を行つた。

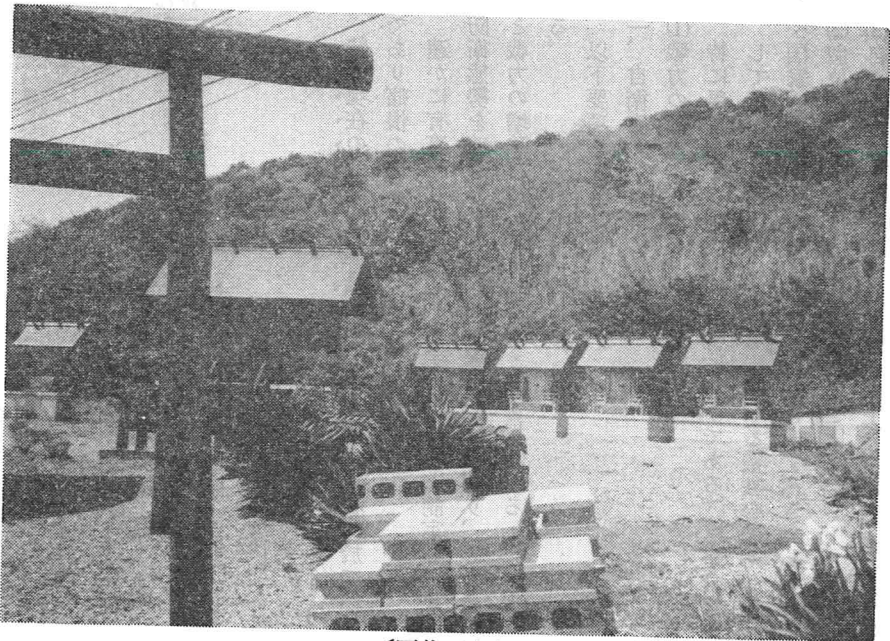
私は戦争中、海軍水上特攻隊長として比島・沖縄方面に配備されたが、「生かされて神命を果す」為に生き残つた。故に死ぬ時は、前述の殉死者の殉死の精神を以て、神前に白衣で帰幽し、あの世迄も仕えまつるのが嬉しい毎日である。



(昭和宮と筆者)

(殉死とは現世では無意味であっても魂がああの世迄仕える事になるから価値ある事である。)

(終)



(歴代天皇社)

# 防衛態勢の確立につき提言

青木守夫

(岡山県支部副会長)  
少候十九期

## 要旨

国際社会に於ける世界の中に於ける日本は今や米國と共に指導的立場にある。然るに独立国家日本の防衛態勢は画餅に属するものである。防衛庁の防衛計画大綱が一朝有事に即対応の態勢に移行し得るであろうか。即ち有事に対応する諸立法、国家防諜法の制定等在再日を費やし防衛の総指揮官たる総理大臣を始め国家首脳・政治家の我が国の防衛に関する無関心というか、勉強不足というか、シビリアンコントロールに偏向し、専門家たる制服組を除外しマスコミ国民与論に不要の気づかいを積み、隣邦の干渉によるめき、真に独立国家として国家国民を護る毅然とした信念に欠けた何物でもない。日米摩擦を生じた最たるものは野党、特に日本社会党の幻想的非武装中立論から誕生した反米運動である。

特、現在の政局、政府首脳の醜体を繰返す現状に於て、然りであり痛恨の極みである。

速かに有事諸立法を確立し、国家防諜法を制定し、民間防衛態勢を確立し、自衛官の処遇の改善を図り、その団結と戦力の増強を速かに実現することを提言するものである。

以下要項を記述する。

### 一、自衛官の処遇等の改善

(1)戦力の基本は人であり自衛官である。

特に現行志願兵制度に於て特に然りである。有事身を挺して危険を冒し困難に殉ずる崇高なる犠牲心に対し先づ国家国民は挙つて尊敬と感謝の意を表すべきである。

(2)叙位叙勲等の栄典の措置を講ずること。

(3)自衛官の社会的・経済的地位の向上の措置を講ずること。



と。

(4)戦(殉)死・戦場・公傷者に対する援護を講ずること。

(5)就職斡旋其他に関する適切なる措置を講ずること。

二、防衛庁(自衛官)制服組の能力を充分發揮し活用すること。

三、日米安保条約による来援米軍の受入態勢を計画的に推進すること。

四、民間防衛を計画し具体的に態勢を整える。現在予備自衛官四万八千名で事足りりとする如き一笑に附すべき事ではあるまいか。

五、自衛隊以外の国家機構に於ける各省庁本来の有事の防衛態勢を速かに整備すること。

我が国の自衛隊は戦後全く新しい政治形態即ち連合軍占領政策と第二次大戦敗戦の影響による反戦反軍の中で誕生したから自衛官の心の支えは旧軍とは異っていると思う。

自衛官が列国なみの軍人でなく特別職国家公務員として取り扱はれて来たが、憲法第九条の改正が困難なれば世界列国との国際関係もあると思うのであるべく軍隊(軍人)とするよう努力すべきではあるまいか。

現に潜水艦「なだしお」と釣り船第一富士丸の衝突事件にも、艦長の責任問題等についてもマスコミ等が真実をよく確かめないで一方的に潜水艦を批判した偏向的報道がな

されたことは、良識ある国民の間にマスコミ報道に反省を求めた所である。

こんなことがあると一片の宣誓と心得書のみによって奉職している自衛官が、一大家族を省みず絶海の孤島等で勤務するに拘らず、之を当然として見送る政府首脳や国会の風潮が定着しあるかに見える現状に於て、吾人は強く当局に反省を求める念を禁じ得ないのである。

我が国の防衛は実質的に防衛庁のみの任務なりと政府も国会も考えているように思はれる所に大きな問題がある。宜しく国家の最高指揮官たる総理大臣は伝統ある我国の歴史と、世界の中に於ける西側陣營の指導者として、一億二千万国民の陣頭に立ち、毅然として胸を張って臨まれることを期待し、実行を以て国民に奉仕せられることを強調しておきたい。

(元・七・五・記)

(岡山県日本原防衛協力会顧問)







# 北京天安門広場事件に 対する我が日本の対応 を訴う

扇 貞雄

(共産圏動向研究所長  
連盟顧問)

去る六月二十一日大阪近代経営研究会の心ある社長の集いに招かれ、一時間半ソ連ベレストロイカの実態を講演、

凡てのマルクス・レーニン主義を奉ずる国は極少数の幹部、特権階級に非ざれば人に非ず、全人民は之が奴隷に過ぎない官僚組織のガツチリと固められている国々であり、如何にゴルバチョフの唱えるペレストロイカも一旦権力を握った人間が手離すことを怖れる困難性の実態を語り、更に演後、会食を含め、一時間半期せずして天安門事件を中心とする熱心な質疑応答に於て、現体制墨守、何等反省なき中共政権に断じて未来無しと断じ熱氣溢れる懇談の時を持つことの出来た事は只感謝であつた。

最初に強調したきは、我が日本は根底としてマルクス・レーニン主義を墨守する国々の傘下には絶対に入ることの出来ない国体と国民性の国であり、マルクス・レーニン主

義の矛盾より一日も早く世界を立ち直らせようとする人々の努力に対しては同志として相共助すべき立場にある国家であると言ふ最重要な一事である。

二十四歳の時参謀本部ロシア班に始まる中国は満洲、北支、中支、南支と転戦、戦前、戦中、戦後、シベリア、欧ソに勤務、戦後も全東欧諸国、キューバ、ベトナムと駆け巡り、具さに、マルクス・レーニン主義を奉ずる国々の人民大衆の真姿に涙して五十年、今や世界の共産圏の国々はペレストロイカ、グラスノスチの掛け声の下変革に変革を繰り返えさざるを得ない所迄追い詰められている時代、独り中共は、全く世界の大潮流に逆らう大逆転を繰り返えし、何等の反省もない狂人集団の国と化し、人類史上未来永劫に残る大悲劇を露呈している事は人類の一大恥辱である。

世界の良識國、先進國を自負する国々は、社会主義標望のフランス、ミッテラン大統領、イギリス、サッチャー首相を始め、オランダ、カナダ、オーストラリア、スペイン、イタリアと夫々正論を開陳している中、我が日本は常に列國の驥尾に付して只恐々として中共の顔色を伺っている姿には情なくて涙も出ない次第である。

「正論なき國は必ず「亡ぶ」」

常々靖國神社問題、教科書問題、個人の発言問題等内政干渉もよい所の仕打ちを受け、対中、土下座外交に終始、世界正義、道義の為正論を守る気概等いささかも見られない現対応は、全世界の民主主義、擁護努力の後手後手と遅れていることは我國青史一大汚点として残ることであろう。

アジア安定の為良好な日中関係を維持することの重要性だけを強調、慎重姿勢一本槍で其の場を糊塗すが如きは道義を新生日本の國本を中心としなくてはならない我が祖国にとり怯懦の一語に尽きると言うべきであろう。そして此の時に及んで更に恥ずべきは、エコノミックアニマル丸出しの日本財界、経済界の大物と自称する人物が、次々と外務省が世界与論の驥尾に付して僅かに商社員の中国帰任は自肅され度しの要請に対する経団連会長の「当面中国との経済関係縮小は絶対反対する」の正式発表を初めとする近

視眼的事象は中共の本質を知らざる無知笑うに耐えないものである。

あの身体を張って戦車縦列の前に立ちはだかり戦車の行進を止め、更に戦車によじ登り、指揮官を説得した青年王偉令君十九歳が多数の者と共に逮捕され頭の髪をそり上げられ、日ならずして処刑された報道に対し、之等尊い救國英雄の人命救出に全世界が即刻一丸となって行動をとらなかつた事を悔むのである。

更に私の最も納得出来ない事は我が同盟國アメリカ、ブッシュ大統領が再三に亘る議會に對する「忍耐と寛容」を訴える演説である。(米國の中國に於ける対ソ情報活動施設を失う弱みを考慮してとも言われているが)

自主性を忘れた米國追隨を第一とする我が國の対応又之と同調するものであつたことは勿論であつた。

中國民主化の為に立ち上つた学生市民の代表を見殺しにした愚は、米日共之等英靈に心よりお詫びしても止まない事であろう。

後れたりとはいえ、今からでも遅くない。未だ未だ數百千の人命が危機にある事を思う時即刻全世界の正論、総力を結集して之等尊き人命救助の為万般の手を打たねばならない事を訴えて止まない。

世界に先がけ道義國家として今こそ日本は目前の利害得

失にかかわらず、全世界を叱咤激励することこそ、全世界人類の民主主義発展擁護の為新生日本の責務なりと自覚し立上るべき時なりと祈念する者である。

今、私は敢えて明確に断言する。

王偉令君を始めとする今迄に処刑された方々は必ずや新生中国の殉教の英雄として永遠に称えられる日は必ず近いであらうと。

又、鄧小平一派は人民の敵として葬り去られ、永久に中国青史の汚点として残るであらうことは絶対であると。

そして此の際同志諸先生に附加強調し度きは、今次中共戒嚴司令部、十六日の李之雲大佐の発表に見る空々しい黒を白と言い張って憚からぬ、マルクス・レーニン主義に洗脳された人間の常套手段たる言動に対して説明しておきたい事である。

彼は六月四日午後四時から五時迄天安門広場を整理した過程に於て一人の学生、市民をも射殺していないし、ひき殺したり負傷させてもいない。

官民の生命を守る為に空に威嚇射撃はしたが、群衆や老人、婦女子に向けて決して発砲していない。南東方面から天安門に向う一台のバスに、大学生六人が屋根に居り、十数個の火炎瓶を取り出した為、部隊兵士が現場で六人を逮捕したが、此の時も発砲は勿論、警棒で殴打もしていない

等々。又西側記者との会見に於て、血の弾圧等なかったの一点張りで終始し、数万人の人間の目撃している事実説明要求に加えて西側記者の現場写真を提示しての説明要求に対しても終始答えず無視するのみであったと報じている。

平然と黒を白と言い切つて恥じない此の事実だけは、余りにもマルクス・レーニン主義で洗脳された人間と言うものの真実を知らなすぎる事多き甘い日本の大衆にしかと腦裏に叩き込んで頂きたいのであります。(元・6・25)



# 天安門の惨劇に想う

森 本 真 章

(連盟顧問)

去る六月四日早朝、中国軍は、北京天安門広場で、民主化と自由化を願うハンストなど平和的活動を行っていた学生らを弾圧した。軍は、北京大学生をはじめ各地方の大学生、これに同調する一般市民、労働者など素手の集団に対して、民主主義国では予想もできない武力行使の挙に出た。銃による射殺、戦車による圧殺などの残虐行為がテレビ、ラジオ、新聞等で報道され、共産主義の恐ろしさを今さらながら痛感した。アメリカ、イギリス、フランスなど各国においては、この中国の人権無視の行為に非難声明を發表するとともに、中国に対して制裁措置を表明する国も出現した。

この事件に対して、六月六日の夜のモスクワ放送は、「軍隊と学生が衝突し、正統派が勝利を占めた」との放送を行い、鄧小平氏らの残虐行為を是認した。

これに関連して筆者の脳裡をかすめたのは、仏紙『ル・

フィガロ』(一九七八年十一月十八日)及び米紙『US ニューズ・アンド・ワールド・リポート』などで伝えられた「共産革命による犠牲者の数」である。その数は、

ソ連……………六、九七〇万人

中国……………六、三八〇万人

カンボジア……………三〇〇万人

その他……………一、四四〇万人

合計一億五、〇〇〇万人以上となっている。その膨大な数字にはただ驚くばかりである。

英国の高校教科書に「ロシア侵略の恐怖」と題して、一九六八年のプラハの春、すなわちチェコスロバキアにおける中道社会主義の芽がソ連軍の侵略によって圧殺された事件、及びハンガリー動乱の悲劇のことなどが記述されている。

今回の北京事件は、共産主義の恐ろしさを改めて思い起

こさせると同時に、人命尊重、人権確立を求める自由と民主主義が如何に大切なものであるかを再確認させてくれた。われわれは、その擁護に、国民あげて、最大限の努力をせねばならぬ。

(福井工業大学教授)

(教育正論第35号より転載)

## 第三回防衛講演会の実施

郷友連盟の第三回防衛講演会が、平成元年七月十八日、京都府支部担任によって、京都、新都ホテルで行われた。

講演は、日本郷友連盟堀江会長を講師に迎え、「日本安全保障の現状と問題点」の演題によって、約百五十名の聴衆の前で一時間にわたって行われた。

講演の要旨は、堀江会長が、十二年にわたり参議院議員として国会内外で活躍された間に強く感じられ日本の安全保障の問題点、特にシビリアン・コントロール、防衛政策、自衛隊の精強化施策、安全保障基盤の確立、日米協力等のテーマについて熱弁をふるわれた。

時偶々、参議院議員選挙の真っ只中のこともあり、選挙の結果、自民党の議席が過半数を割った場合の危機感にふれ、百五十名の聴衆に多大の感銘を与えた。

講演には、柚木関西地区補給処長、丹羽京都産業大学教授を始め、京都府支部及び分会役員、防衛協会、その他の地域代表に加え、本部から理事五名が参加した。

(註) 郷友誌九月及び十月号「日本の将来を想う」記事参照。

(柏木理事記)



(講演風景)





# 明日の日・米対立 を憂える

斎藤

忠ちゆう

国際政治・軍事評論家  
日本を守る会代表委員  
連盟顧問

## 世界が日本に見る

### 自由主義崩壊の危機

イギリス首相サッチャー女史は、「日本は確かに経済大国になりました。だが、世界の指導力を持ち得る国であるかどうかは、なお疑わしいと思います」と言う。わが国内の現在の事態を見るならば、その批判も、或は、当然であると思わなければなるまい。

過日の参議院議員選挙における自由民主党の大敗も、確かに、その何よりの証拠と言えよう。この国の政治は、既に、国民の信頼を喪って居るのだ。

まして、その事態が、更に世界の諸国のわが日本に対する不信と軽侮を惹き起こしたことも、これまた、当然であったと言うべきであろう。

いずれにもせよ、わが祖国に向けられつつある世界の眼は、このままでは、ますますきびしさを増す一方である

う。

イギリスの日刊紙「フアインサンシャル・タイムズ」なども、「三十四年に及ぶ自由民主党の支配を脱れて、いまや日本は、より多元的な民主主義に向かって進む可能性を示しつつある」と評して居る。表現は、極めて遠慮深い。だが、言わんとするところは、自由主義崩壊の可能性であらねばならない。

### 在日米軍駐留費の肩代

#### りを要求するアメリカ

竹下政権の破綻以来、わが日本の政権は、こま切れた交替の事態が続いた。それが、わが国の対外関係に、どのように大きな空白を生んだかは、万目のひとしく視るところであらねばならない。「日本の政局は、果たして安定に向かうことが出来るのか？」先頃のフランス共和国の首都パリにおける先進国首脳会議の誓約を、日本は、果たして実

行出来るであろうか？」現にわれわれは、極めて多くの異邦人から、その懸念を聞かされたのである。

この事態が、アメリカ合衆国内部の対日強硬論者にとつて大きな刺激となったことも、これまた、予期されたことであらねばならない。得たりとばかりに続発する、きびしい対日批判。

アメリカ合衆国は、既に、在日アメリカ軍の駐留経費全額の肩代りをわが日本に求める法案を可決している。——去る八月二日、合衆国議会上院本会議においてである。

そもそも、この決議案は、七月三十一日、ナン軍事委員長の名で提出されたものである。その内容の最も主要な部分分は、ブッシュ大統領に対し、在日合衆国軍の駐留費用に見合う金額の支出を求めるために、日本政府との交渉を開始するよう要求しつつある個所なのである。

### 衰退する合衆国の高度

#### 技術力

アメリカ合衆国は、今更いうまでもなく、現在の世界列国の首位に在るとも言うべき超大国である。軍事面においても、ソヴィエト社会主義共和国連邦と共に、比を絶する力を持つ。

その国が、こともあろうに、この太平洋対岸の日本を指

差して、「日本の軍力は、ソヴィエト連邦のそれよりも大きい」と断言する。それは、確かに異常と言わなければならぬ。

反面、そのアメリカ合衆国の高度の技術力は、現に、年毎に衰退してゆく。これは、アメリカ合衆国にとっては、極めて深刻な事態であると言わなければならぬ。

いま、アメリカ合衆国の軍事技術の水準を決定するものは、日本の高度の技術を手入することが可能であるか、それとも、不可能かの問題なのである。

だが、アメリカ合衆国にとって、それにも勝る深憂の事態は、今後、日本が、高能度兵器の最も重要な輸出国となり得る可能性が明白となって居ることであらねばならぬ。

これは、遠からず、アメリカ合衆国が、「高度技術供与を拒否する」という手段を外交政策として駆使し得ぬに至ることを意味するが故である。

### 思い出される昨日まで

#### の緊密な日米関係

それにつけても、思い出されるのは、つい昨日までのレーガン大統領時代に日米両国が経験した緊密な関係であらねばならない。

当時の国防長官ワインバーガーの日本に対する深い理解と親愛の情は、今もなお、多くの人々にとって、忘れ得ぬ思い出になって居る。まことに、良き時代であり、良き両国関係であったのだ。

そのワインバーガー長官の下で、国防次官補を勤めたアーミテジ。また、日本課長アワー。その両氏も、また、共に、深い理解と親愛の情を以て、わが国との関係の強化に努力してくれたことは、今も、われわれの記憶に鮮やかである。

当時の合衆国議会内部に、現在のような日本批判の暴論が全く無かったわけでは決してない。日本側の共同防衛負担の不十分を非難する声は、現在同様、激しく、きびしかったのである。

「日本は、その防衛予算を国民総生産の3パーセントにまで増額すべきである」という決議すらも、現に、一度ならず行なわれて居るのだ。

### 対日批判の嵐の中の議

#### 会証言

われわれが今も胸に刻んで忘れ得ぬのは、その激しい対日批判の嵐の中における合衆国政府の議会証言である。よくよくの信念と、わが国に対する信愛の思いが無ければ、

あのような議会証言が出来るはずは無い。

「日本は、ここ数年、その防衛支出を、前年比五パーセント乃至六パーセント拡大して来ている。日本駐留の合衆国軍に対する支出も、アメリカ兵一名に就き四万五千ドル。これは、世界の首位を示すものではないか？」と、信念を以て応答して居るのだ。

「もとより、航空母艦、原子力潜水艦のたぐいこそ、保有しては居ない。しかしながら、対潜哨戒機P3Cは百機。戦術戦闘機の数も、また、アメリカ合衆国本土に在る数よりも多いのである。護衛艦の数も、また、当然のことながら、アメリカ合衆国本土に在る数よりも多い」と、言葉を尽くして、わが日本のために、現実の事態を説明してくれて居るのである。

日本国民たるもの、当時の国防省首脳はこの懇情を忘れてはなるまい。

### 日本の理解者は殆ど政

#### 権の中枢から去った

経済の一面に就いて言う限り、両国間の摩擦は確かにきびしさを増す一方であったものを――。この心ある人々の厚い信頼と協力のために、国防の面においては、両国の固い信頼と協力に、いささかの崩れも見られなかった。そ

の事実を、いま、心ひそかに懐しく想い返すのは、悲しむべきことなのであろうか？

このようにわが日本の立場に深い理解を持つ人々が、レガン大統領の時代終つて後、殆ど総て合衆国政権の中樞から去つて居ることを、なによりも口惜しく思う。

ブッシュ現大統領の新しい共和党政権が、合衆国議会内に圧倒的多数を擁する民主党勢力の激しい反撃に苦しみつゝあることは、今日までも、機会ある毎に、度々指摘して来た。両国間現在の悲しむべき違和の事態は、その変化の当然の結果に過ぎないと言えば、言えるかも知れない。だが、問題は、これを何時までも此の儘に放置して良いからだ。

### 初秋九月に開始される

#### 新しい対立

いずれにしても、合衆国議会の日本に対する態度が一段と険悪の度を増しつゝあることは疑い得ない。僅かに五年前と思ひ比べて見ても、その変化は、確かに容易ならぬものがある。

上下両院は、相次いで、米軍駐留経費全額の負担をわが日本に要求する法案を可決した。その二つの法案が結局一本化されるのは、この秋のことと見て間違ひあるまい。

わが防衛庁がこれに反発しつゝあることも、もとより、当然であらねばならない。外務省にしても、「現行の日米地位協定に拠るならば、現在以上の負担は不可能である」と、困惑の色を隠し得ずに居るのだ。まして、防衛庁にしてみれば、この問題が日米両国今後の激突の焦点となり得る可能性を深く憂慮せずには居られぬのである。

地位協定は、その第二十四条において、在日米軍の維持に伴う諸経費は米合衆国の負担。また、施設、区域の提供に伴う支出は、日本側の負担たるべきことを規定して居る。従つて、光熱費であるとか、邦人従業員の本給などは、米軍の維持に伴う経費であつて、日本側の負担は不可能であるべきはずなのである。

合衆国議会は、盛夏八月の間、休会した。再開の日は、九月五日。——その後、この問題を中心にしてきびしい対立が続くことは、避け得られることではあるまい。

(平成元年八月二十一日)



## 軍事常識

### 空母物語 (七)

佐藤 文夫

(連盟理事)

#### 七 ソ連の空母

ソ連海軍は一九六七年米国のポラリス弾道ミサイル潜水艦(SSBN)の脅威に対応して対潜ヘリ(15機)搭載艦「モスクワ」(一万四千トン)を、翌年「レニングラード」(同)をそれぞれ就役させたが、これを対潜巡洋艦と称しジェーン年鑑もまたヘリコプター巡洋艦に分類している。

従ってソ連最初の空母は一九七五年就役の世界初のV/STOL空母「キエフ」(満載排水量三七、一〇〇トン)ということになる。本艦は4.5度勾配、長さ二七三メートルの斜甲板を有し、搭載機はV/STOL機YAK 38フォージャー13機及び対潜ヘリ、ホーモン19機である。同級の「ミンスク」「ノボロシスク」「バクー」は一九七八年から八七年にかけて相次いで就役した。「キエフ」「バクー」は北洋艦隊、「ミンスク」「ノボロシスク」は太平洋艦隊に配

属されており、この四隻がソ連現有空母のすべてである。

「キエフ」級は前部から艦橋付近(アイランド)にかけて強力な対潜、対艦、対空ミサイルを集中的に装備しており、ソ連はこれを戦術航空機搭載巡洋艦と称している。

搭載機フォージャーは英国のシーハリアーと並ぶV/STOL機であるが水平飛行用主エンジンとは別に胴体内に垂直上昇用に下向けの小型ジェットエンジンを取付けている。このため離艦重量を抑えられ、燃料、兵装の搭載量はシーハリアーより一層少なく最大速度0.9マッハ、戦闘行動半径は三百〜四百キロと推定され性能面では劣っている。

当初はV/STOLのみであったが一九八〇年代に入りV/STOLが可能となった。また、対潜ヘリ、ホーモンは最近これの能力向上型のka-27ヘリックスに逐次切換えられつつある。これらと米空母搭載機とは機数、速度、兵装、行動半径等何れも差があり過ぎ米空母の前にはまさに鎧袖一触となるだろう。従って「キエフ」級は陸上基地航空機の掩護下に主として味方SSBNの防御、敵潜水艦の搜索攻撃、自隊防空等が主任務となる。ただし「バクー」は全面的に改装されアイランドの外容も一新し新空母の先行試験艦の趣を呈している。

また、その極東回航を鳴り物入りで喧伝された「ミンスク」「ノボロシスク」は、その後ウラジオから外洋出勤の



機会が極めて少なく、老齡艦ながら活潑な行動を続ける「ミッドウェー」と対照的であり、その可動率の低さを問われている。

さて、噂のソ連大型空母は一九八四年偵察衛星によりその建造が確認されてから、俄に脚光を浴びてきた。排水量六万五千トン、飛行甲板長三百メートル、搭載機数六五〇機と推定され、西側での予想艦名を「ソヴィエツキー・ソユーズ」「クレムリン」「レオニード・ブレジネフ」と再三改名を繰返し今や「トビリシ」に落着いた。

「トビリシ」は当初原子力推進艦と見られていたが後に高速時は重油燃料ボイラーを併用する複合型推進によるという説が有力となった。またCTOL空母にしてはカタパルト、着艦拘束装置がなく、後に12度のスキージャンプ台が附加されたこと等から推測してV/STOL空母との見方もある。しかし、搭載機として有力視される機種は六〇七種に及び黒海沿岸のサキ飛行場に模擬飛行甲板とともにスキージャンプ台二基を設け、これよりの発進と拘束着艦のテスト中という。CTOL空母であれば米空母への挑戦とも考えられ、V/STOL専用ならば「キエフ」級の延長上の役割となる。 「トビリシ」は目下公試運転中で本年末、二番艦は一九九二年にそれぞれ就役の見込みという。さらに七万五千トン新型空母の建造に着手し一九九〇年代

後期に就役との米国国防省筋の情報もある。

ところで、ソ連空母はすべて冬期に建造の妨げのない黒海沿岸のニコラエフ南造船所で建造されている。従ってその外洋進出時はダーダネルス、ボスボラス両海峡の通航を余儀なくされる。ところがこれには一九三六年締結の「海峡制度に関する条約（モントルー条約）」があり主力艦（戦艦、巡洋艦）以外の軍艦で総トン数一万五千トン以上のもは通航できない規定がある。ソ連が「キエフ」級を巡洋艦と強弁する所以もここにある。さて「トビリシ」は何と称して通るか、ソ連、トルコの出方を西側諸国は固唾を呑んで見守っている。

なお、米国以外で唯一の国産CTOL空母保有国フランスは一九六一年、六三年に通常型空母「クレマンソー」（二七、三〇〇トン）及び「フォッシュュ」（同）を就役させた。NATOに加盟せず独自の外交を展開する同国はその後継として今世紀末頃就役予定の原子力空母（三万四千トン）二隻の建造に着手した。カタパルトは米国から輸入し、目下その搭載機（四〇機）の開発を推進中である。

（完）

## 随想

# 世界の最新情勢と日本の対応

越智誠一

(連盟顧問)

中国では一九七七年、鄧小平が実質的に政権を掌握以來、経済の改革・解放路線を掲げ、「四つの現代化」政策を進めて来たが、去る四月八日、胡耀邦元総書記の死亡、五月十六日、ゴルバチョフ書記長の北京訪門を契機とし、天安門広場において発生した学生・市民の民主化要求運動を反党・反革命暴乱と断定し、五月二十日、北京市内に戒厳令を布告し、軍隊を出動させて六月四日、終にこれを武力鎮圧した。近年における中国の経済建設は目覚しく、世界各国はその近代化政策を期待していたが、今回の事件は正にこれに冷水を浴びせる衝撃的事件であった。しかし中国共産党は社会主義中国の建設について次の四つの基本原則を定めている。即ち、①社会主義の道②プロレタリア独裁③共産党の指導④マルクスレーニン主義と毛沢東思想を堅持することである。また一九七八年制定の中国憲法には、第一条「中華人民共和国は労働者階級の指導する、労働同盟を基礎としたプロレタリア階級独裁の社会主義国家

である」、第二条「中国共産党は全中国人民の指導的核である。労働者階級は自己の前衛である中国共産党を通じて国家に対する指導を実施する」と規定している。この共産党の指導について鄧小平は「中国のような大国では共産党の指導がなければ四分五裂を来し何事も達成出来ない」と述べている。中国は広大な国土と十一億の人口を有する多民族国家であり、これを統治することは如何なる政権にとっても容易ではない。中国の過去五千年の歴史を見ても、歴代王朝が栄枯盛衰の歴史を繰り返しているが、全土を完全に実効支配した政権は皆無であると言っても過言ではない。従って現代中国においてもこの大国を統一支配するためには反政府活動に対しては時に強権を発動することの必要性も理解されるが、社会主義体制維持のためには、必要があれば人権を無視し、人民を弾圧することも辞さないのが共産主義政権の実体である。

一方、ソ連では一九八五年、ゴルバチョフが共産党書記

長に就任以来、内にペテストロイカ・グラスノスチを提唱し、国内の経済・政治体制の改革を図ると共に、対外的には米ソINF条約の締結、アフガン駐留ソ連軍の撤退、ソ連軍五〇万人の兵力削減等一連の平和戦略を展開していることは周知の通りである。しかしこうしたソ連の新政策が果してソ連共産主義の変質（世界革命戦略の放棄）を意味するのか、或は単に停滞するソ連経済を活性化し、政治的にも軍事的にも強いソ連を再現するための方便に過ぎないのか現段階では予断は困難である。一九八六年のソ連共産党綱領には依然として「現代は資本主義から社会主義・共産主義へ移行する歴史的闘争の時代である」「ソ連共産党の国際政策の目標は①ソ連における社会主義社会の完全化と共産主義への前進のために好適な外的諸条件を確保すること、②世界社会主義体制の強化と進歩を有ゆる手段で助成すること、③共産党・革命民主主義政党・国際労働運動・諸人民の民族解放闘争との国際的連帯である」等と規定している。ソ連も中国と同様、広大な国土と二億八千万の人口を有する多民族国家であり、国内では国民生活の困窮の外に人権問題・民族問題・宗教問題等に起因する各種の紛争が多発し、その前途は決して容易ではないであろう。これらに関連し、今後如何なる事態が発生するやも予測し難い。

全体主義国家においては有ゆる内外政策を規制するものは憲法・綱領等に規定された教義・原則である。これらの教義・原則は情勢に応じ時に弾力的に解釈運用されることはあっても、基本的にその路線を逸脱することは許されない。若しそのようなことをすれば、政権は基盤を失ない、社会秩序は崩壊するからである。共産主義諸国におけるこれらの教義・原則が明白に修正されない限り、一時的に政策の変動があっても、これら諸国の今後の動向は樂觀を許さないであろう。

戦後約半世紀を經過し、世界情勢は今や大きな転換を遂げつつある。その特徴は①ソ連経済の停滞、②米国指導力の低下、③日本及びアジアNIEsの経済的台頭、④欧州統合の動き及び、⑤新中国の躍進であろう。今後の国際情勢はこれら五極が相互に対立と協調を繰り返しつつ進展するものと予想される。わが国は戦後東西対立の谷間に位置し、国際的環境に恵まれて奇蹟的な経済発展を遂げ、今や世界の経済大国となったが、何時までも国際政治の局外者として八方美人的存在は許されないであろう。場合によっては国際的役割について世界各国から厳しい要求と指弾を受け、国際的に孤立する可能性も否定し得ない。今こそ、変転する国際情勢を直視し、自らの立脚点を、明らかにし、肚を堅めて自立自存の途を探究することが必要である。

## 戦いの九原則（その4）

今回から各原則の解説に入るが、始めに目標の原則をとあげたい。米軍流に行動（機動）の原則をもつてくるのも意義あることだが、日本人の場合にはまず目標をはじめもつてくるのがよいと思う。なぜなら日本人は意外に目標感覚が鈍いからだ。筆者が自衛隊に入って、アメリカ式戦術を習ったとき、日本人と欧米人の違いを強烈に意識したのは、この目標感覚と情報感覚の二つであった。情報については保全の原則のところでも省略して、目標の原則をのべるが、アメリカ軍は見積りも、判断も計画も、すべていかにして目標を達成するかに焦点をおいている。したがって核となる目標の原則をきわめて重視する。米軍の陣地攻撃を図上で研究したときのことだ。彼らはまず目標を必要性と可能性の両面から検討する。いくつかの目標をあげ、それを必要性つまり戦術的重要度から分析して優先順序をきめるが、これは目的達成のため決定的意義をもつ目標はどれかの観点にたつて、順位をきめていくの

武岡淳彦  
（兵法経営塾長  
連盟顧問）

である。ついで可能性の検討に移るが、その要領は収集した情報から、敵陣地つまり壕の深さや守備人員などを知り、これに対する射撃可能な火炮の種類、砲数、使用可能弾数などをあげながら、その敵陣地にあたえ得る損害の程度を算出し、奪取の可能性について検討するのである。このような検討は全陣地および予想される逆襲について行なうので、検討が終ったときにはすでに攻撃計画の骨格ができていたのである。筆者の中国大陸での数多くの実戦体験から、日本軍で行なっていた努力目標的な目標感覚とは大きな隔りがあるのを知ったのである。

日本人の目標感覚の鈍いことは、戦国武将をみてもわかる。たとえば今川義元は桶狭間で討死したから論議されることはないが、彼がどこへ行こうとしていたかは、想像できても史料的には明らかでない。また武田信玄も西方に向おうとしていたことはわかっているが、どこまで行こうとしていたことは明確ではない。結局目標意識がはっきりし

ていたのは信長だけである。

太平洋戦争をふり返ってみても、陸海軍ともやや明確を欠く。海軍の場合、昭和十六年度までの作戦計画では、トラック群島付近での日米艦隊決戦を考えていた。つまり決戦場という場所的な目標は、ラバウルの手前であった。それが緒戦後、フィジー・サモア諸島に延伸され、そこにいたるステップとしてガダルカナル、東部ニューギニアが選ばれたのである。だがミッドウェー海戦後、作戦は中止したものの、足場として占領したガ島などは放棄しようとせず保持することにしたのである。したがってガ島決戦などはもともとの作戦計画では考えてもみなかったものだ。むしろ戦いには状況に即応して行なう状況作戦的なことも必要だが、そこを戦争の山場、天王山的決戦場とすることは、どう考えてみても不利だ。そうなった原因は海軍の意識における目標感覚の鈍さにあるように思われてならない。

陸軍の場合は満州事変後の戦線拡大がこれを物語っている。軍歌討匪行の「どこまで続くぬかるみぞ」的にとめどもなく目標が延びた。筆者も昭和十九年末湘桂作戦で貴州省まで足を踏み入れたが、そのとき「どこまでいけば終るか」と天を仰いで長嘆したことを今でも覚えている。

戦後の企業家についてもこのことはいえる。倒産企業の

四割は戦略上の放漫経営が原因といわれるが、放漫性をつきつめていけば目標が杜撰か、目標意識がないかの何れかだ。最初に売上がある。その売上から変動費を引き算して粗利益をだす。その粗利益からの固定費を引き算して、残れば利益だ、残らなければ赤字ということをやっているのである。

政治家もそうだ。筆者が数年前、箱根のホテルで東京地域の自動車整備振興会の会員に目標についての講演を行なったときのことだ。最前列で一語も聞きのがすまいと実に真剣な面ざしでメモとっていた人がいた。講演終了後その人は名刺を出して挨拶されたが、衆議院の商工委員長をしておられる某代議士先生であった。その先生のいわれるのには、「国会議員は国家目標をたて、国家国民をその方向に引っぱっていかなければならないのに、どう考えてもその点は曖昧で、政争や選挙に浮身をやつしているように思われてならない。今日は本当にいい話を聞いた」といわれた。この先生の述懐を待つまでもなく、日本国のいき方は「なりゆき委せ」である。そうなるのは明確な目標意識をもたないのが最大の原因だ。日本がこれだけの経済大国になりながら、なんとなく列国から軽くみられるのは、目標という一番大事なものをはっきりさせず、情緒的感性で方向をきめるからだ。



では、なぜ、このマネージメントの核心になる目標意識が不明確なのか。これだけすぐれた民族が、そのような意識をもつからにはそれなりの理由があるはずだ。筆者はそれを次のように考える。日本人は何千年来日本人だけで、農林水産業を営んで生きてきた。農業は米作りが主体だ。米のでき不できは天気次第だ。日本人は勤勉だから良く働く。だから今年は一反歩から何俵収穫してやろうと目標をたてて働いてみても、結果は、その年の天候次第でまゐる。このような生活を長い年月続けていけば、自然に目標意識が薄れてくる。林業や漁業も多少の差はあっても似たようなものだ。

これに比べて肉を主食とする欧米人は違う。たとえばある部族が生きていくには、一週間でどれだけ肉が必要かは、その所属人員から明確に査定できる。となればそれをとるためにどうするか、まず森の中の毛物たちの情報がいる。ついでそれを捕える捕獲計画が必要だ。そうして捕えた獲物が少なければ、他部族を襲い奪ってでも必要量を確保しなければならぬ。そこには目標を中心とする、つまり数量的な収穫量を中心とした生活があり、それでなければ生存できないのである。

日本人の目標意識が薄い原因は他にもある。国土の狭小なことも、また国土の七割が山地であることもその原因

だ。狭いということは方向さえきめれば自然に目標へいくことになる。またその狭い国土の大半が山地ということ、道路も隘路などを通る関係で、ごく自然にきまつてしまふということだ。目標、目標と大声で叫ばなくても、一般方向に副って行けば、自然にいきたいところへ行けるということだ。この点大陸特に広漠地で方向だけ示しても停止箇所を示さなければ大変なことになるのとは大違いだ。

だから旧軍の『作戰要務令』、『海戦要務令』とも、目的、目標に対する記述が曖昧というより、これが見積、判断、計画のもとになるという記述がない。特に陸軍の場合、明治十八年ドイツからメツケル少佐が来朝して以来、ドイツ式の方法で法令や制度を作ったのだから、目標意識の顕著なドイツの影響で、目標については明確にならなければならないのに、いつの間にか曖昧になってしまったのは、やはり民族性が押えこんでしまったのかもしれない。

ドイツ陸軍で目的、目標意識が強調されるのは、クラウゼヴィッツの『戦争論』に由来する。クラウゼヴィッツは、ナポレオンに敗れ、その後ナポレオン軍を敗ったロシア、プロシア、オーストリア軍らの同盟軍の頭脳となったプロシア参謀部のスタッフである。彼はナポレオンがモスクワ遠征に失敗したときロシア軍首脳の中にいた。ナポ



# 祖国日本に愛と誇りを持つ子を育てる(その3)

——愚母と賢母と、その子達——

多田 三重子

(国際教育研究所研究員)

憶良らは 今はまだらん 子泣くらん

そのかの母も わを 待つらんぞ (巻三、三三七)

万葉の歌人、山上憶良は、私はもうお暇しましょう。(わが家では)子が泣いているでしょう。その子の母もまた私を待っているでしょう。と、宴たけなわの仲間に詫びつつ座を立てて家路を急ぐのです。まことに家族愛に満ちた憶良の真情が力強く歌い上げられています。

このような父親の家庭で銀(しろがね)にも金(くがね)にもまさる宝と育てられてこそ子供は親思う心の豊かな、国のため、人のためにも尽くせる日本人に育つものと思われまます。ドイツの作家、ジャン・パウルは『母は吾等の心に熱を与え、父は光を与える』と言っています。

夫婦相和しての子育てこそ洋の東西・古今を問わず家庭教育の基本であります。その基本に立ちつつ、今回は特に子に接する母の実例を通して考察し、日常の母親のあり方について問題を提起したいと存じます。

一、わが子の心を打ちこわす母の怒声

☆ 怒鳴らず、抱きしめてほしい

夕焼けこやけのメロディーが優しく町中に流れますと、それは「五時半ですよ。お家の近くへもうお帰り。また明日ね」という合図なのです。でも、夏の五時半は家の中にはいるにはまだ惜しく遊びに時を忘れることもあるのです。

あの日の夕方、マンションの玄関前で私は立ちすくみました。仁王立ちの母親が、四、五歳の女の子に頭から怒りを叩きつけているのです。同じマンションの住人です。

「お母さんが心配しているのが分からないの。夕やけこやけがとくに聞こえたのに。そんなに帰るのが嫌なら、もう帰らなくていい。出て行きなさい。おうちに入れない。」女の子は母親の繰り返す「出て行きなさい」の怒声に、とうとう「ウエーン」と泣き出してしまいました。

見兼ねて「奥さん」と声を掛けた私に「いつもこうなんだから。」と言うなり女の子の腕をつかみ、引きずって帰って行きました。

幼女誘拐・殺人事件が相次ぎ、特に野本綾子ちゃんはずぐ隣の町での被害でもあり、気持ちにはよく分かります。

けれどもあの叱り方は余りにもひどすぎました。暗然とした気分です。次のような思いが浮かんだのです。母親が、

①、「ああ、よかった。誘拐されたかと思つて、お母さんずい分探したの。よかった」と強く、強く抱きしめる。

②、しゃがんでわが子の目の中をのぞきこみ見つめて

③、静かな小さい声で「夕やけのお歌が聞こえたらどうするの」と問いかける。子供は真剣な母の顔・あふれそうな涙も見て、これ程までに心配する母の心に体を通して感動し、これからはお歌が聞こえたらすぐ帰ろうと幼い心にしっかりと誓うことでしょう。

母親が感情の昂まりや不安感をストレートにわが子にぶつけると、叱られた思いは残つても、母親への信頼感や、母親への感謝の思い、そこから生ずる自己規制にはならないのです。激情をぐっと押さえ、優しい言葉に代えるゆとりや能力も、母親としての大切な修業の一面です。

☆ もう一人の未熟な母とその子

土曜の二時ころ、地下鉄の車内は相当に混んでいまし

た。

日本橋で乗った母子も反対側のドア近くに立つ私の横まで押されて来ました。乗る前からの続きらしく母親は、

「今朝、あんなに約束したのにさ。」

「パチンコなんかに行っちゃったんだよ。」

「こっちはもう、おなかペコペコだよ。」

「父ちゃんなんか、今夜、夕飯食べさせないから。」

五歳かと思われる息子に言い募っているのです。事情は大体理解できましたがその口調の激しさに、そつと見ると目を引きつらせ憎悪そのものの顔です。始めはウン、ウンと無表情に聞いていたその子が突如、はつきりと「バカだよ。父ちゃんは。大嫌いだ」と言ったのです。

驚いて振り向くと何とその子の顔が母親そっくりの憎悪にゆがんでいるではありませんか。(その間、約十分程です。)

電車は西葛西駅に停車し、私は強い衝撃を受けたまま、うつむいて下車しました。

自分の心をコントロールできない母親、自己抑制の能力未熟なまま母親となつてしまった女性を母とする子の不幸。

こうした母親に育てられる子もまた、がまんすることのできない、自己中心で相手のことを考えられない、まして



国際性などは身につかない人間になるかと思われます。

約束違反の事情を聞きもせず、夫への不信と恨みを子に移植してしまった愚かな母。あの子が哀れでなりません。

「父ちゃん、きつと急なご用ができたのね。」

「二人でお昼ご飯食べよう。おいしいものたくさんね。」

と言えば、子は町の食堂での母との食事を喜んでに違いありません。父ちゃん来られなくて可哀相と話しながら…。

「母」なるが故に善意に解釈し、素早く気分転換できる賢明さが欲しいものです。愛児を心豊かな人に育てるために。

## 二、すばらしい女性、その賢母像

### ☆ 僕も勉強しよう

F夫人は、当時PTA役員（書記）をしていました。元来、謙虚な人柄で慎み深く何事にもよい結果は人の功とし、不調は自分の責任とする態度でしたから、誰言うとならず、静かに信望が集まっていました。役員となつてからも、ワープロの技術を生かしてPTA活動に大いに貢献しました。

マンションに住み夫と一人息子（当時三年）との典型的な核家族です。人一倍愛情細やかで働き者の夫人のことで、当然のように育児も他人の目には、過保護でした。

K君は見るからに育ちのよいおっとり型で少々肥満児。

成績は上の部で通信簿には毎回、積極性に欠けると書かれました。母子密着型と言うべきか母親の枠の中に安住する素直な良い子。読書も宿題もお母さんに言われてから始めました。外遊びは好まず友達もほとんど来ませんでした。

F夫人はあるPTA活動の中でよい友達とよい指導者に出会い毛筆習字を始めました。学生時代に戻った気分です。楽しく、F夫人は毎晩のように習字の練習をしました。

ところがある夜、息子が「僕も勉強しよう」と言つて机を持ち出し母の傍に来て漢字の勉強を始めたのです。

F夫人は内心、驚き、いつまで続くことかと思つていましたが、夕食後の一と時が母子共学の時間となつて、格別の事のない夜はここ半年余、ずっと続いているそうです。

息子の勉強は書取から算数や社会、時には図書館から借りた本の読書へと広がり、日常生活も、一々指図しなくてもさつさと自分でする傾向になった事に気付き、F夫人は息子の消極性は、自分のさし出口のせいであつたと、しきりに反省し息子の変化に感謝しています。

「子は親の言うことは聞かなくても、親のすることは真似る。」また「子は親の背を見て育つ」とか先人はよい教えを残してくれました。子は親にまねぶ（学ぶ）のですね。

以前、六年生の男女二十人に聞きました。お母さんは、



①、顔を見ると「宿題は？」、「勉強した？」と聞く。

②、しようと思っているのに「早くしなさい」と言う。

③、すぐ「ダメね。ダメじゃない」と言うからやる気が無くなってしまうと大半の子供が言っていました。

言うよりも親が手本をまず示す。気を付けたいものです。

☆「がまんする」「やってみる」

由美ちゃんは未熟児で生まれました。一年生の時もクラスで一番小さく痩せていて、体育が不得手でした。当時、学級担任であった私は、毎日休み時間に子供達と外遊びをしました。が他の子が登り棒に登ったり器用に鉄棒で遊べるのに由美ちゃんは見ているだけでした。由美ちゃんのズック靴の裏を両手で押し上げると、由美ちゃんはこわごわ、登り棒を握り一生懸命登ろうとします。始めは身長よりほんの少し上に登れるだけでしたが、由美ちゃんは休み時間が来ると登り棒の所へ行き、私も行って少しずつ高く押し上げるようになりました。ある日、由美ちゃんが両手をハンカチで巻いています。見ると手の平の中指・薬指・人差指の根本の部分が大変です。黒く、紫色、その上が赤い血豆と三重になっています。両手です。「……由美ちゃん……今日はお休みね。」とその小さな手を私の両手で包みます。「大丈夫です。がまんします。」細い優しい声で言うのです。

この子は近くの公園で午後、お母さんと毎日、鉄棒のけいこをしていたのです。夏休み前のある日、私が背伸びして、両手を精いっぱい伸ばして、そのあとを由美ちゃん一人で一番上まで登り詰めた時、囲りにいた子供達、上級生も一せいに拍手をしてくれました。棒の握り方、足で棒をはさむ要領など、由美ちゃんに皆が教えてくれたのです。

マットでの前回りの時には、お家で敷布団を重ねて毎晩練習し、飛箱では、お父さんが台を作って跳ばせ、縄跳びの頃には二人の姉が先生になって、家族全員で応援してくれました。三重の血豆の皮がはがれてもなお、がまんした由美ちゃんは、中学、高校では体操クラブに入り、選手にもなり活躍しました。

由美ちゃんの家には今、四歳の甥がいます。手広くしている自営業の一部の責任者として母親が多忙なため、このよっちゃんには、すっかりお婆さん子です。自転車乗り、おもちの組み立て、公園での鉄棒遊びなどお婆さんが、

「よっちゃんには無理かしらね」と言っても、

「ぼくや、つてみる。」と何事にも挑戦し、繰り返し、工夫して年上の子の仲間入りする外遊び大好きです。

にこにこした目がキラキラと輝き「生き生きとした子」

と会うたびに感動を受ける可愛い坊やです。

※以下P・24下段に続く。

## 防衛講演要旨（愛知県支部主催）

# イスラエル事情

空将補 青井 昭

（航空自衛隊  
小牧基地司令）

ユダヤ人は、「神から選ばれた民」だといひます。世界の数ある民族の中で「苦難の道を歩むべく特別に指定された民族」だそうであります。

旧約時代、神が与え賜うた地に、一時的に王国を築き得たはしたものの、ソロモンの栄耀榮華続かず、世界の各地に離散し、それぞれの地で、差別、不当な扱い、あるいは苦難の末え、やっと念願叶って自らの国を持ち得たものの、そこが、戦争とテロの危険に日常直面する最も危険な地であるという皮肉な歴史を辿っております。

一方、世界の各地であれ程迫害に苦しみ、ナチ・ドイツには、実に数百万人が虐殺された経験を持つユダヤ人が、パレスチナの地では現地パレスチナ人を占領支配するという立場に置かれていられるというのも歴史の皮肉と言えましょう。

在イスラエル防衛駐在官として、三年間現地に勤務して来た私が、よく質問されるのは、「ユダヤ民族は本当に優秀なのか」「イスラエル軍は言われる程強いのか」という点であります。

民族が人種として優秀かどうかは別にして、確かにユダヤ人の中には優秀な人が多い。それは一つには、教育によるのではないか。世界各地離散の身であったユダヤ人にとって、教育こそ我が子に与え得る最大・最良の財産であった訳です。

「一匹の魚を与えることは、一日の飢えを癒すに過ぎないが、魚の獲り方を教えることは、一生の飢えを解決する」との中国の諺がありますが、世界各地離散の身では、土地は持てない、財産はいつ没収されるか解らない、いつ

身一つで逃げ出さざるを得ないか解らない、どこで生き延びようと、役立つ財産は、身につけた教育であります。

また、世界中に離散した生活を強いられた事により、民族の種の保存の為、ユダヤ教が唯一の頼りとなった。子弟に旧約を教え、ユダヤ律法やタルムードをはじめとするユダヤ人の知恵を脈脈として育て伝えて来たのであります。

さて、イスラエル軍の強さについても、確かに、一九四九年、一九五六年、一九六七年戦争と三次の戦争に勝ち抜き、一九七三年のヨム・キプル戦争では、緒戦に苦戦はしたものの見事勝ち残った。

この事実そのものが、強さの一つの証明となっております。

しかし、アラブの兵士の名譽の爲にも付言しておかねばならない事ですが、兵の勇敢さや規律の面では、アラブの兵士も優るとも劣らない。

どこが違うのか。

アラブ・イスラエル戦争を見ると、丁度、社会主義と自由主義とが戦場でぶつかり合う形が、そのまま出て来て居ります。

中央計画型指揮を基本とするアラブ軍は、下級部隊に勝手な判断を許さず、権限を上へ上へと吸い上げ、上層部で計画した通りの行動を細かく求める。

これは、自らが攻撃の火ぶたを切って、攻勢裏に作戰を進めて行くのには、大きな力を發揮するが、一旦攻勢が流動化し混戦状態となると、上からの命令は間に合わなくなるし、頓珍漢となる。また、唯一トップの能力に依存する訳です。から、トップの能力限りのものとなってしまふ。戦争が、単純な兵器を使い、単彩な作戦で事足りているときはよいが、兵器は複雑多岐化し、戦況は急速に流動変転してゆく時代になると、丁度、今のソ連経済の様になる。

これに対し、自由企業型指揮を特徴とするイスラエル軍は、個の能力を頼みとする。しかも彼等に単純思考を排し、複眼的思考を奨励する。権限は出来る限り下へ下へと委譲して、状況を最も良く判断できるレベルへ権限を与えらる。

アラブの将校は、上の命令・指示を仰ぎ、イスラエルの将校は、自ら考え自ら判断する。アラブの兵士は、命令の確實履行を旨とし、イスラエルの兵士は、一人一人が、命令が有ろうが無かるうが、自ら出来ること、やらねばならぬ事をやろうとする。皮肉なことに、ピラミッド型の厳格な命令・服従の形をとり、中央部の計画が事の成否を決する形のアラブ側に、師団級の大部隊を指揮する能力を持つ将軍が少ない。ところが、自由企業型指揮組織をとり、各級指揮官に発意、自主性を奨励するイスラエル軍の方に、

そういつた將軍がゴロゴロしている。

戦争というものは、計画通りには事が運ばない。戦況は変転万化流動する。時間も時には味方になり、時には敵になる。新兵器、新戦術も作戦の途中で導入されて来る。

計画通り進んでいる時は、アラブ側は物凄い強さを発揮する。現に、一九七三年のヨム・キプル戦争開戦に当たってのアラブ側スエズ渡河計画は素晴らしいものがあつた。

しかし一旦戦況が流動化するとイスラエル側が、途端に強くなつた。この辺の秘密がそこいらにあると考えています。

昨今では、このイスラエル軍の優位さが失われつつあると言われています。今迄、アラブ側は、ソ連の兵器を主体とし、従つて、ソ連式訓練を受け、ソ連式戦術戦法で成り立っていた。ところが今では、西側の兵器を購入し、西側の訓練を受け、その為戦術戦法はもとより、軍の組織・管理体制も逐次向上しつつあるという訳であります。

経済産業界も戦場に例えられますが、今や経済戦争は、戦線は拡大し、状況は流動変転する時代となつておりません。

この状況下、企業が生き残りあるいは、闘いを勝ち抜く為には、従来のようなピラミッド型上意下達の組織では駄目だという考え方が広まりつつあります。

この考え方は、東海地方の大手企業の間でも広がっているようですが、その一つに管理職ポストの廃止があります。或る大手自動車製造会社では、八月一日から謂る「ピラミッド型」から、フラットな「文鎮型」へ組織を変えたそうであります。

また、或るガイシ会社は、新しい生産システムの開発に取り組む為のニュー・トータルプロダクティビティ運動推進の一環として、個人の意識改革を行うため役職ポストは残すものの、役職名で呼ぶのを止めると報道されています。また、最近躍進の大手レジャー・飲食関係企業グループは、「社員に同じ目的、同じ価値感を持つてもらおう為」会社設立当時から「同志」の呼び方を導入しているといわれます。

組織をフラットにするとか、役職を廃止するとか、これをそのまま軍の組織に導入すれば、兵を鳥合の衆と化し、部隊を関東軍化する等危険性を伴うものとなります。

しかし、イスラエル軍の実例から見ますと兵個人のパーソナル・イニシアティブを最大限尊重し、個人の能力を徹底開発させ、積極自発的活躍の場を与えてやる、一方、共通の目的意識、価値観あるいは帰属、連帯意識を涵養し組織全体としての目的達成を誤らない。この二つの方法でもって組織を運営して行くなれば、複雑高度な技術をこな

し、多種多様な部隊を管理し、変転万化する状態に柔軟に対応し、ある時は鉄の固りの様に、ある時はアメーバのように戦争に勝ち残る軍が出来上るのではないかと考えておられます。

人類の歴史は戦争の歴史、革命の一大叙情詩といわれますが、これは人間そのものがいつまでも未完成の作り物であり、矛盾した存在であることから来ていると私は思っております。

人間というものは、愛と憎しみ、哀れみと力への信奉、慈悲心を持つ反面自我を持つ。

ロシア人は、個人と付き合つて見ると善人だとよく言われます。その善人たるロシア人が、一方では力を信奉し、世界共産化のイデオロギーを持ち、ポーランドやチェコに進駐し、同じ共産中国と争い、ヴェトナムに肩入れし、アフガニスタンには軍事介入し、大韓航空機を撃墜する。

よく兇悪犯罪のあと、「あんな音無しい人が」と言われます。人は環境により、場合によっては善人にもなるし狂人にもなる。

世界平和を叫号する者達が、実は爆弾・テロに血道をあげている。

自衛隊は、軍国主義者の集まりの様に一部で言われておりますが、我々は、過去の戦史を学ばず程、戦争の怖

しさを痛感します。今の兵器の性能を知れば知る程、その破壊力の大きさ、もたらす悲惨さに眼を覆います。将来の様相を研究すればする程、平和主義者とならざるを得ません。

先程も申しましたとおり、人の持つ矛盾したものの、これが戦争や革命のもととなり、その状況下、いかなる人も狂人となり得るといった事を考えますと、やはり、戦争を防止する手段、革命を起させない手立ては常に準備しておくことが必要であります。

この意味において、平和主義者の我々も、その一翼にならべく日夜努力を重ねているところであります。

防衛力整備は、着実なるを要します。

イージス艦とか、FSX、空中給油機等最先端技術を結集した装備が話題に登っておりますが、その性能を最大に引き出し、多様自在に使いこなせる人間も必要です。今や航空自衛隊では、その創立の礎となった旧軍出身者は既になく、F-86Fに始まり今やF-15を飛ばせるように成長するに力あつた人達も定年を迎え、どんどん辞めていっております。今程、新しい血、若い力が必要とされている時はありません。

※以下P・40末尾へ続く。



# 主張

## 八月十五日を国民の休日に

坂田次男

(唐津市郷友会長)

五月四日が昨年から国民の休日となった。もちろん良いことには違いないが、何も深い意義があるわけではない。要するにゴールデンウィークといつて、当時四月二十九日の天皇誕生日が祝日で、一日がメーデー。一日は休日ではないが、ほとんどの企業で従業員の一部が年休をとってメーデーに参加する。三日と五日は祝日で飛び石連休になる。そこで四日を休日にすれば三連休となる。日本人は働き過ぎだから、いっそのこと四日を『国民の休日』とした方が効果的である、という発想からであったと思う。

ここで私は、八月十五日を国民の休日とせよ、と言いたい。八月十五日はその意味・意義において、五月四日とは大変な違いがある。政府は数年前、八月十五日を『戦没者

を追悼し平和を祈念する日』と定めた。東京では例年、天皇陛下をお招きして全国戦没者追悼式が盛大に行われている。日本国民は、太平洋戦争で一身を国にささげられた二百五十万の英霊に、心から感謝の念を表さなければならぬ日である。この日こそを政府は国民の休日と定め、国民は英霊顕彰の行事を行い、また終戦の詔勅を拝誦（はいしよう）し、世界の平和に寄与する覚悟を新たにしよう指導しなければならぬと思う。

(佐賀新聞より)

# 〈毒舌〉

## 世相瞥見

——武蔑の思潮を斬る——

岩政寛隆

(山口県支部通津  
郷友会名誉会長)

有史以来始めての敗戦で日本から姿の消えた物の一つに戦争学(広汎な文武一如の軍事学)がある。武力による抗争は野蛮人の手段と乙にすまし込む戦後の思潮は、武を蔑み卑む結果、武を以て国に仕え、護国の英霊となった勇士を祭る靖国神社にさえ背を向ける世相を醸し……外国に使用して、無名戦士の墓に花輪を捧げる総理大臣さえ、自国の靖国神社への参拝は躊躇する……武備をするから戦争が起る、と云って非武装を党是とする政党もある……自衛隊のシビリアン・コントロールの思考も亦その片鱗ではあるまいか。

今日の日本には全くと云っていい程戦争学がない。教育界は勿論政界でも関心が薄く、このことは自衛官と、軍事評論家とほんの一握りの防衛研究団体(人)に任せ切りである。

支那の古語に「良民不兵」と云うのがある。これは西欧先進国が支那民族を弱体化し殖民地とする為に仕組んだ畏の

造語だと聞く……。世界の聖(ヒトリ)積(ツクリ)迦(カ)を生み、その教えの榮えた釈迦族も戦争学を疎んじた為、仏典(悟)は成就したが国は滅んだ。この様に武蔑の為に滅んだ国は東西の史上枚挙に遑がない……今!! 行われている中共の内紛も武力(軍)を握る鄧一派の独走で押し切られ革新派は失脚、弾圧の中に在る……吾が北方の脅威も、金銭(ゼニカネ)でなくソ連の軍事力である。

幕末から明治維新にかけて、当時は敵であれ味方であれ共に戦火を潜った戦争学修学の侍達が一方は政治家になり、他方は軍人になった。従って明治の時代は統帥権独立に拘らず。政・戦両略は見事に一致した……。ところが今次の敗戦を機に都合の悪いことは凡て他人のせいにする風潮から、敗戦の原因は凡て軍に在ると決めつけ、自衛隊の創設に当たっても旧軍に対するイメージをそのまま持ち込み戦力を保有する自衛隊は嚴重に文民の統制下に置く必要があるとされたのではあるまいか。

平時の防衛も有時の戦争も一貫して政治であり、国政の責任者、内閣総理大臣は、陸・海・空三自衛隊の総指揮、監督者である。そして制服自衛官は戦争学を修めた専門家として補弼の総理補佐官であり、自衛隊は国防や災害急援等、行政の一部を担う補佐道集団である……。今更「文民統制」と云うには及ぶまいと思うのにこの語がある。旧軍の統帥権が余程歪め伝えられている為か……政治家、文民に常に卓抜した戦争学があるなら幸であるが、自衛隊不要と叫ぶ政党もあり、現状はいささか文民独走の観がある……。防衛費一つとって見てもGNP一%枠は審議会にも定見はなく、当時の蔵相大平正芳氏が国会乗り切りの為、「GNP一%以内が適当と考える」と答弁して十数年を経過し、吾が国の防衛比重が変化しても尚一%枠は独り歩きを続け、国会に於ても、今日尚一%を繞って喧々譁々である。醜態はそれだけではない。一昨年予算が一%を小犬の尻尾の毛先程食み出したと云って、国会が終るや北京に詣でてご注進に及び「鄧さんが日本の軍事大国化を懸念してござる」と鬼の首でも取った様に喧伝して家苞にした野党の党首もあり、日本の政治家の戦争学音痴を暴露し、世界の侮を受けた。

文献によると文明先進国の国民に対する軍事教育の歴史は古く、戦前の日本学徒の軍事教育すら米国の制度の模倣

であったし、米国の大学には軍事教科があり、男女を問わず軍事学を修め、且つ一定条件の許に予備士官の養成が行はれ、過ぐる大戦の劈頭、直ちに二十万人に及ぶ予備士官の招集に成功したと聞く。……陸上自衛隊勤務の息子の言によると、先年北海道で行われた日米合同演習で懇意になった米軍のH・K中佐はハワイの日系二世で、本職はハワイ大学の学部長とのことである。

国家の経営は、内政・外交の調和した推進に在り、自衛力は外交上欠くことの出来ない重要々素であるが、吾が国の教育に於ては戦争学はタブーとされ国民の軍事常識は白紙に等しく文民政治家の多くも例外ではあるまい。……制服自衛官はその道の専門家として誠心誠意、補佐道に徹し、文民政治家もこの補佐道に信倚し、文民優先に驕らず謙虚に耳を傾け、一致団結国家百年の計に誤りなきを期して貰いたいものである。

建武の昔、足利尊氏が將軍職を狙い京に攻め上った時「天皇の叡山行幸を請い、勝ち誇った足利軍を京の町に誘き入れ、機を見て四方より攻めたてその殲滅を図る」と云う、楠公の献策を文人、公家の容喙で退けられ、忠臣正成は湊川に亡び、天皇の権力までも足利の手に落ちた……故事もあり心して愆しい。

※以下P・50下段に続く。

# 郷友オピニオン

## 歴代政府の戦略責任

崎山茂樹

(本部防衛講座研修員  
会社社員 31歳)

現在の我が国は、有事に対する備えがはなだ不十分だとよく言われる。自衛隊の装備が不充分であり、有事法制が整備されていない。民間防衛体制にいたっては皆無である。これらは皆、根本的に一つの原因につながっている。すなわち、日本には有事の際の「国家戦略」というものが、事実上無い。この一点に帰することができるのである。

陸・海・空の自衛隊は、有事の際の行動指針として、空自は防空、陸自は北海道防衛、海自はシーレーン防衛と、誠にバラエティーに富んだ戦略を唱えている。しかし、こ

れらはいずれも陸・海・空の個別な戦略(?)であって、全自衛隊の、日本国家の国家戦略ではない。有事の際、陸・海・空の自衛隊がいかに協力して、いかに戦うか、という総合戦略は無いのではないか。そしてこのような状況をつくり出した責任の大半は、シビリアンコントロールの名のもとに自衛隊を統制してきた防衛庁と、それ以上に歴代の自民党政府にあるのではないかと私は思う。

これまで政府は、戦略らしきものとして、「安保条約を前提として米軍の来援まで持久する」とか、「防衛計画の大綱」だの、「限定小規模侵略に独力で対処する」とか言ってきた。これらがいかにおざなりでいいかげんなものであるかは、すでに多くの有識者達によって語りつくされた感があり、今さらここで私ごときが繰り返し述べるまでもないと思う。

では、わが国が持つべき「戦略」とはどのようなものか。まず基本的に、我々の目的は、勝つ事ではなく、「負けないこと」である。勝つという事は絶対に不可能である。いかに自衛隊が善戦し、国民がそれを全力を尽くして支援しても、モスクワを占領してクレムリンに日の丸を立てるなどという事はできるはずがない。西側陣営全体が団結しても、それは不可能であろう。全面核戦争の危険をおかしてまで、そうしようとする者はいるはずがないから

である。もつとも同じ理由で、ホワイトハウスに赤旗が立つこともまず無いと思えるが、東京に赤旗がひるがえる事は有り得る。

このような条件下にあって、我が国がとりうる現実的な戦略は、基本的には「防勢」に立ち、防衛行動と戦術的な反撃を併用して、戦況と損害比率を有利に保ちながら持久する。そうすることによって相手の力を消耗させ、なるべく有利な条件で停戦、さらに講和という形に持ち込むしかないと思われる。

そのために重要な点が二つある。第一に、戦略的な条件が前述のとおりである以上、戦術的にも勝つことより負けないことを優先させざるを得ず、多分に防衛的な態勢をとらざるを得ないと思われる。そのためにはまた、十分な民間防衛が絶対に必要不可欠である。これが無ければ日本は内側から崩壊してしまうであろう。ところが我が国には民間防衛体制というものがまったく皆無である。自衛隊の戦力は「不足」だが、民間防衛は掛け値無し「皆無」なのだ。これこそ歴代政府の防衛に対する無気力、無責任の証明ではないかと思われる。

もう一つの重要な点は、和平を成立させる条件である。どのような政治的、軍事的な条件を整えれば、クレムリンは停戦交渉のテーブルに付き、文書にサインをするのか。

これはその時の状況しだいで左右される可変的な要素が非常に多く、予想も困難と思われるが、それだけに、平時からの研究の積み重ねが必要と思われる。しかし、そのような研究が行われているという話は聞いた事が無い。要するに、国の防衛にとって最も重要な問題が、まったくおざりにされているのだ。これこそ、歴代政府の重要な責任であるにもかかわらず。

われ懷う、故に述べたい

池上 巖  
(連盟相談役)

わが国の総理大臣を選考するには国際感覚優れ、国会活動に卓越した方が条件らしい。勿論それも必要な資質ではある。歴代の総理の就任施政演説に、わが国の独立と安全に尽力すると明言された方はない。列国の大統領は、自分の責務は国の独立と安全を守るのが第一であると宣言している。結局は根本的に政治理念の違いである。

わが国では、国策遂行として総合安全保障、総合防衛が



論ぜられるが、大風呂敷を広げるだけで内容は乏しい。国の安全保障は国防力が根本であり、防衛の主体は軍隊（我国では陸・海・空自衛隊）ではなからうか。国民生活に欠かせない諸物件を確保、補完、蓄積し総合的関連で国民の生命、財産を守る外廓城壁が、総合安全保障ではなからうか。

### 専守防衛で国が守れるか

軍備競争が激しかった米・ソ両大国間に中距離核制限交渉が妥結して、通常兵力削減をも提案されつつあることは結構至極である。一方わが国を顧みれば、常備兵力過小、外征能力は全くなく、自国を守るのさえ足りない。内外の識者はよく承知の通りであるが、わが国の要路の大官達は、中国・韓国を始めとし近隣諸国に向って、軍事大国にはなりません、わけの解らぬ専守防衛を得々とし、他国に優る兵器や能力はありません。靖国神社には公式参拝はしませんと平身低頭している姿は哀れである。

脅威を感じさせない軍隊をもって、他国からの侵攻を阻止することが出来るだろうか。仮想敵国の一つや二つは想定して、その外敵の戦法を研究し侵攻に対処し、我兵力に加うるに精神力と訓練術力を保持してこそ、抑止力が顕示されて、我国の安全が期せられるのである。

### 米国との同盟を大切に

何れの国も自己兵力だけで、国の安全を保つことは不可

能であるから集団防衛で実効を図らねばならない。いつまでも憲法を楯にして、集団防衛や国際的兵力派遣を拒否し、身勝手な振舞をしていては、四面楚歌、孤立無援で、嘗つての苦戦・敗戦の憂目に再び遭遇することなきにしもあらず。

幸いに、米国と安全保障条約の同盟を結んでいる。肌色・国情・言語・風習など違うので、貿易・電気通信・F S X生産・農産物輸入などに多少の摩擦は已を得まいが、前大戦後、恩讐を越えて、米国の友情のお蔭で今日我国の経済繁栄が齎された恩義を感じ、片務的な日米安全保障条約ではあるが、在日駐留米軍への援助を理解し、現在難行している逗子の米軍住宅、三宅島の訓練飛行場建設に対し、政府として大局的観点から特別法をも考え、善処促進することは、緊急要項であろう。

## 郷友の心を後に

続く者たちに

加藤 武 徳

(参議院議員)

戦後四十数年を経過すれば、幾つものことが風化作用を起すのはやむをえないこととしても、そうであつてはならないものがあるに違いないし、お互いはそれをしっかりとみつめて、これを護り伝承していかなければならない、その義務を背負つている、と思う。

それはあの戦争で国家民族のために尊い命を捧げたり肉体の一部を失い、また戦争によつて犠牲を被つた多くの人々に思いをいたし感謝のまことを捧げる心や、戦後も例えば自衛官のように国を護るために公に報じてくれた人々に敬意と感謝を捧げる心を、風化作用を起し忘却してはならないことだ、と私は常々考へている一人である。

ここに、三年は毎年予算編成期に議論することであるが、大蔵省が予算原案を内示しようとするに当つて、軍人恩給や傷病年金を社会保障費として組み込もうとし、わが自民党関係議員と大激論を繰り返しているが、国家保障でなければ断じて承服しないと主張する私共の意見に渋々従つてゐることをみても、戦争を経験していない若い官僚諸君には、金額さえ多ければ、社会保障だつて国家補償だつて同じではないか、との間違つた考え方をしていると思へてならない。精神的風化作用の一現象であるのかも知れない。

もとより旧套を墨守しようとするのではなく、時運の進

展に添つて捨てるべきものは勇敢に捨てなければならぬが、守るべきものはしっかりと守つて、後に続く者たちに伝承することが、現代に生きる吾々の責務ではないか、と常々思つてゐることである。それは郷友会のいわゆる郷友精神ではないであらうか。私も戦争生き残りの一人であるが、郷友会の益々の発展を祈つてやまない。(郷友議員)

## 私の宿願

杉田 一次

(名誉顧問)

曾つて我が陸士で学び、戦後韓国陸士校長、参謀総長、駐英大使などを歴任し、後に五年間駐日大使だつた崔慶祿中将の談話が本年一月十五日の産経新聞に掲載された。

彼は、日本の政治家に「何故日本の軍隊は自衛隊なのか。名称を変えて「日本国軍」とすべきではないか」と質問したが、時期尚早だとの答えであつたとし、更に、次の如く語つてゐる。

「私も日本の平和憲法を知つてゐるが、自衛隊は誰が見て

も軍隊（注、格好をしている）である。その実態をごまかし、「自衛隊」というのは極端に言えば詐称ではないか。

……侵略戦争は許されないが、敵に攻撃されたとき、堂々と敵の軍事力を破壊できる兵力を備えるのは国家として当然の権利であり、義務である。どうして世界の一部諸国や一部国民の顔色を伺う必要があるのだろうか。……アジアの強国、日本が自衛隊を「日本国軍」と名称変更し、堂々と軍事力を強化し、アジアの防波堤となることを期待する……」

彼、崔中将の意見は、国防や軍の本質を衝いている。わが国として猛省すべき根本であろう。国家安全保障の基本をごまかしてきたことが政治の中にも広く根付いて、ロッキードやリクルート事件へと発展したまでのことである。

政治改革も、源を正さずしては百年河清を待つ外あるまい。筆者は、郷友連盟会長だった頃、自衛隊の軍への（徐々に）脱皮を強く提唱し続けたが、微力にして多くの支持を得ることが出来なかった。（注、「国家安全保障に関する提言」参照）

顧みれば警察予備隊（後の自衛隊）創設時、前途有為の若者（旧軍将校で追放されていた者を含む）が多く馳せ参じたのは心中新軍創設に参画せんとする猛烈な愛国心があったからではあるまいか？

今日では退役将軍を含む多くのOBが世に出ているが、戦後四十余年自衛隊の総指揮官（総理）が靖国神社参拝を避け、国民も自衛隊も大勢に押されてか、或は去勢されてか軍の本質を忘れ去り、特別国家公務員で精強な防衛力が育成できると自己欺瞞にさえ陥っているように見える。隣国の崔中将より指摘されたこと自体が恥ずかしい限りであるが、それでも目覚めない祖国の姿が誠に情けなく、宿願達成は益々遠のいて行く。微力を歎ずるのみである。

（平成元年七月五日）

※P・32末尾より続く。

この誇り高く、やり甲斐のある仕事に、一人でも多くの優秀な若者達が馳せ参じて貰える様、皆様にありまして、ご推薦、ご激励下さる様、お願い申し上げます、併せ、日頃私共に対し寄せられておりますご厚情に対し、心から感謝申し上げます、本日のお話を終らせていただきます。

（元・8・10）

# 現代に見る間接侵略・革命 (十六)

狩野 信行  
(日本軍事史学会監事)

## (三) ポルトガル革命 (つづき)

### 制憲議会選挙

一九七五年四月一日、ポルトガルの主要各政党は、四十年ぶりの国会選挙戦に、公式に突入した。ただし政治の実権を握る「革命評議会」によって、中道右派のキリスト教民主党と極左のプロレタリア革命運動党並びに労働者農民同盟の三政党は、選挙終了迄政治活動を行うことを禁止されている。四月四日、主要各政党は、軍部即ち「革命評議会」に広範な権限を与える暫定憲法とも言える政治綱領(案)に同意させられて了った。これは革命評議会が、二日間の期限つきで急な回答を迫ったもので、ポルトガル新体制下における民間政党の地位は、唯単なる裝飾に過ぎないことを明らかにするものでもあった。その骨子は次のようなものである。

① 革命評議会は、内政、外交の基本政策を立案し、法律の合憲性を審査する最高裁判所の役割を果たす。

② 革命評議会は、経済、社会、財政、外交、国防の各政策及び戦争、和平、議会解散の最終的決定権を持つ。  
③ 議会の立法権は、革命評議会に最終決定権が与えられる案件のみに限定される。

④ 革命評議会とは別に、二百四十名からなる軍幹部会議(国軍運動總會)が設置される。

⑤ 大統領は、軍幹部会議と議会によって選出される。大統領は革命評議会を主宰し、軍最高司令官を兼任する。

⑥ 革命評議会は、首相及び国防、経済、内務各相任命の事前承認権を持つ。

⑦ この新憲法(政治綱領)の有効期間は、最大限五年とする。

政党にとっての唯一つの救いは、この約束の期間は最大限五年だとする⑦項にあった。なお、政党政治を信用出来ないとした軍人達は、結局国会議員に相当する国軍運動總會委員(二百四十名)と、これから選出され政府閣僚に相当



する革命評議会委員（二十八名）によって、四〜五年位は実質的に政治を運営しようとした訳である。

四月二十二日、軍幹部会議即ち代議員二百四十名からなる国軍運動（MFA）総会は、国営放送を通じて今年三月三十一日の「国軍右派反乱事件」に関する調査報告を発表し、その中で同事件を「スピノラ前大統領の政權復帰を狙った反革命クーデター計画」と断定した他、社会党、人民民主党等の中道左派政党の動きを非難した。制憲議会選挙を僅か三日後に控えたこの時点で行われたこの発表が、共産党を利する為になされたことは略々明らかであった。

**選挙戦の実施** それでも四月二十五日の選挙は、全世界注視の中で行われ、千人近い外国人ジャーナリストが首都リスボンの街にあふれた。投票率は九十二％で、各党の得票率と議席数（比例代表制による）は、次のとおりであった。

社会党（中道左派）	三七・九%	一一五議席
人民民主党（中道左派）	二六・四%	八〇議席
共産党（左派）	一二・五%	三〇議席
民主社会中央党（中道右派）	七・七%	一六議席
ポルトガル民主運動（左派）	四・一%	五議席

これは第一に、国民の大半が「四・二五クーデター」以後の反サラザール・反独裁の民主化路線を肯定したこと、

第二に三分の二近くの国民が中道左派の社会党・人民民主党を支持したこと、そして第三に急進的な共産党よりは、むしろ穏健で漸進的な社会主義への移行を支持したことを示すものであった。勝利した社会党のソアレス書記長はしかし、「選挙前にMFAとの間で署名した協定書は、制憲議会の権限を強く制限している。従って私は選挙の勝利宣言をしたくない気持ちだ」と言っていた。むべなるかなである。

他方、敗れた共産党の態度は、しかし明確であった。「投票が政党の力量と影響力を示す唯一の手段であるかのように考えるのは誤りである。……選挙は政治状況の変化を何一つ引き起こさないだろう。革命的過程はその独自の活力によって前進を続けるだろう」として、この選挙の結果を無視して、左派勢力の強いMFAとともに社会主義化の路線を強行することを明らかにした。選挙直後、クニャル共産党書記長は、有名なイタリヤのジャーナリスト、アラチ女史との対談で、「選挙なんてどうでもよい。もし貴女が、三八％得票の社会党と二六％得票の人民民主党が多数を構成していると考えるなら、それは大間違いだ。彼らは多数派ではない。私が強調したいのは、選挙は革命の力学には何も或は殆ど関係がないと言うことだ。」「選挙のプロセスと言うものは、革命の力学のごく片隅の方にある



補完的なものでしかない。何故ならポルトガルにおける国軍運動は、独自の政治哲学と自治能力を兼ね備えた独立勢力であるからだ。「制憲議會は、立法機關を作ることもしなければ、代議院になることもない。私は、ポルトガルには国会がなくなると約束する。」「私の言う民主主義とは、資本主義の除去と言う意味だ。ついでに言うなら、西欧民主主義と同種の民主主義は、今後ポルトガルには存在しないだろう。」と述べた。

**共産党の劇的变化** 前述したように、四・二五総選挙迄の共産党は、党綱領からプロレタリア独裁と言う言葉をはずしたり、社会党や中道諸政党とともに仲良く軍民政権を助けたりしてきたが、選挙終了後からは、更に厳密に言うならば、政治の実権を掌握しているMFAの左傾化が明瞭になってからは、あのフアラチ女史に対して語ったように、それ迄の柔軟な姿勢をかたがり捨てて、自らの一党独裁志向をあらわにし始めた。その手始めが、ポルトガル労働界の完全掌握であった。クニャル共産党書記長は、社会党らの反対を押し切って、労働組合の全国中央組織を、共産党の分身化していた「ポルトガル労働組合総連合」に一本化し、また主要な報道機関の編集員を強引に党員やそのシンパで固め、国の情報・宣伝手段を事実上独占していった。更に姉妹政党であるポルトガル民主運動を通じて地方

自治体首長に次々と党員やシンパを送り込み、地方行政をもその支配下に置き始めた。横暴とも言えるこのような共産戦略の遂行を可能ならしめた要因は、この半世紀近い独裁体制下において、たゆまず続けられてきた軍部、労組、マスコミ、知識界等への地下浸透工作であったのである。この不断の浸透工作のお陰で、ポルトガル共産党は軍部を握るばかりでなく、党員六万人（国民総人口九百万人）を擁する同国唯一最大の組織政党として浮上り得たのであった。

#### 力 左派勢力の攻撃とあがき

一九七五年五月一日、即ち制憲議會選挙の六日後行われたこの日のリスボン・メーデー集会は、第二党の人民民主党の参加は全面的に排除され、そればかりか第一党の社会党さえ参加は認められたものの書記長ソアレス氏の演説は禁止されると言う共産党一色のものであった。このMFAと共産党の弾圧策に怒った群衆が、共産党系の軍人であるゴンサルベス首相の演説に対して、「社会主義はよい。しかし独裁には反対する」との大合唱を始めたために、同首相の演説はしばしば中断される始末であった。これは、選挙の結果を、従って又国民の意志を無視して急進的な路線を歩もうとするMFAと共産党に対する精一杯の抵抗であったが、他方この事が共産主義者達の政権第一党・社会党

に対する攻撃を一層強めさせることともなった。

### 社会党機関紙と人民会議問題

五月十九日、ポルトガルの主要新聞の中、唯一つ共産主義者の手からのがれていった社会党機関紙「レベブリカ」が遂に陥落させられて了った。即ちこの日、共産党系労働者達が社屋を占拠し、レベブリカの編集幹部陣を共産党系の労働者委員会の名において解任し、次いでMFAによって同紙は発刊停止、閉鎖の処分を受けて了ったのである。七月八日に到って漸く同紙の発刊が許されたが、それはMFAの派遣する将校の管理監督下に共産党系労働者によって編集・発刊されるならばとの条件付きであつた。社会党は奮激した。しかも翌七月九日、MFAは革命を防衛し、かつ一層の発展を図る為に、「人民会議」なるものを創設すると決定し発表した。「人民会議」とは、基礎組織である住民委員会、勤労者委員会や、その他の人民下部の諸組織が、地域の人民会議・教区人民会議等を結成し、その地域の諸会議から自治体の諸会議が作られ、これらピラミッド型重層構造の最高機関として全国人民会議を結成すると言ふものである。これは即ち、ソヴェエト方式による社会主義建設に向かうものであり、明らかに議會制民主主義を否定するものであつた。

### 社会・人民民主両党閣僚の引き上げ

七月十日、社会党は「共産党の押しつけた非民主的、革命的圧力に屈する訳には行かない」「人民会議構想は、西欧型民主主義を否定し、東欧型の人民民主主義を目指すものである」との抗議声明を発表し、大規模な抗議デモを組織するため、支持勢力結集に着手し始めた。続いて七月十一日、社会党は「革命評議会が、ニュースメディア、労働組合、地方自治体等各分野での共産党の権力独占体制を排除しない限り、政府への参加はしない」として同党閣僚の引き上げを発表した。中道左派の人民民主党もこれに倣つた。この両党の閣僚引き上げによって、第三次ゴンザルベス内閣の残留政党は、共産党、人民民主運動のマルクス・レーニン主義政党のみとなつた。その為、ポルトガルの政治情勢は、共産党と共産勢力の強いMFAとが、社会・人民民主両党の政権離脱を奇貨として、両党始め民主主義政党を完全に封じ込めて、共産党に支持されプロレタリアート独裁を志向する事実上の軍部独裁へと一挙に進むか、それとも両党の要求に譲歩するかと言う緊迫した段階を迎えるに到つた。即ち、一九四八年のチェコの例の平和革命命？ 再現も予想される事態となつてきたのである。

(つづく)

## 随想（その二）

### ○大喪の礼と即位礼に思う

### ○ほっとすることとしないこと

#### 一、大喪の礼と即位礼に思う

大喪の礼では政教分離ということで野党の注文があいつぎ政府の苦心するところとなった。皇室行事（神式）と国事を区分し、若干の不自然さはあったが何とか無難に終了することができた。共産党などは論外として、社会党などの対応に対し曾野綾子女史は「大人げない、日本の文化の伝統は宗教以前のもので、日本の心こそ大切、私はクリスマスチャンだけとお伺いする行事にはそこで行われる作法に従って誠を捧げます」とマスコミに答えておられた。また桂小金次師匠は「日本の心のわからない人は日本から出て行って欲しい」と発言し、反日本族に反発を受けたりしたが、女史や師匠の発言にその人ありと嬉しくなった次第である。ところで次の問題はこの七月（平成二年度予算概算の時）にも具体化に進むであろう来年の御即位礼と大嘗祭

## 八木正忠

（連盟顧問）

のことである。昭和五十四年当時真田秀夫内閣法制局長官は「神式の下で国が大嘗祭という儀式を行うことは許されないと考えている」と見解を示したが、現在の味村長官は「真田長官の答弁は条件付きであり、検討の余地を残している。これはまだ政府の確定的な見解ではない」と含みを持たせた発言をしている。いづれにしても、このことが具体化されるに伴い再び政府と野党の論議があることは確実で、政府の勇気ある努力が要望せられる。その考え方は曾野綾子女史の言われる通りである。

野党が何時も「国民が許さない」と言うが、どの範囲の国民を捉えて言っているのか、迷惑な話である。御即位の礼が大嘗祭を含めて伝統豊かに実施されることを心から願うものである。終りに最近靖国神社や護国神社に地方公共機関からの玉串料支出が裁判沙汰になっているのを聞くが、ふざけた話である。また、中曾根氏が靖国神社公式参



拜を自から始め自から取り止めた信念のなさは大きな汚点であると思つている。敗戦後の占領工作上の思想工作が利き過ぎているとしか言いようがない。(二元・三・一五)

## 二、ほっとすること、しないこと

混雑電車は何処もということであるが混んでいても吊革も持たず電車が揺れるたびに他人を頼りにもたれかかる者が多くなつてゐる。その者達の中には読みものまでしてゐるものもいる。私は先日地下鉄丸の内線に乗つたが、突然「痛い！ 気を付けて下さい」という若い娘さんの声がした。吊革をもたず読みものをしながら頭にネットをかぶり和服で下駄ばきのおっさんが「後から押したのだから仕方あるまい」と言つた。よく見るとどうも何処かの坊主風である。そのおっさんが娘さんの後から下駄で踏んづけたことが解つた。私は下車前に確めるため「失礼ですが何処かの御住職様ですか」とたずねたところ「そうです」と答へた……。

次は私共同窓の者達で毎月二〇日に銀座で昼食会をしなから時事見聞の発表などをしてゐるが、最近の昼食会の隣りの部屋では〇〇生命会社の外交ウーマン達の慰労パーティが行なわれており、昼間からカラオケが始まつた。私の発表も聞きとれぬほどの賑やかさである。これも会場

をセットした営業側も慰労会をしてゐる側もそれぞれの思惑でやつてゐることであるうが、何だか割り切れないものを感じた……。

その時の昼食会で発表したことで、先頃ブラジルに出かけた友人の話であるが、ブラジルでは今なお「日本は戦争に負けていない」という、いわゆる勝組勝ち組の人が多く居て、日本から旧軍人などが行くとも、てもてであり、商談などは直ぐ決まり、後は勇ましい話ばかりが続き、驚きであるといふことである。また別の友人で製紙会社の社長の話であるが、いま日本を始め世界の紙の需要は大変に伸び続けているが、紙の原料である植物が減少しつつあり、このままでは原料難の音づれは必至であるので、友人の会社ではブラジルなどへ植樹奨励のため多額の資金供与を行つてゐることである。この事は単に紙の原料確保だけでなく地球汚染という問題にもからむことであるので、他の地球汚染要素のことに共に連繋して、大いにやつて貰いたいと申し述べた次第である。

先般宮城と千葉の知事選が行なわれ、結果は衆知のとおりであり、福岡や鹿児島などの選挙にもこの傾向が出ており、まさに自民党のピンチである。今後の政治改革やリクルート問題へのけじめがどうなされるのか、なかなかつきりしない。政治不信の拡がる中でこの際自民党に大きな

お灸が与えられることは必至であるが、かと言って大多数の良識ある国民は野党に政権を委ねるといった不見識は持つていないと思われるので、この点少しはほっとするところである。日本の国内だけでなく世界への貢献という責任からも、政官民挙げて自浄しなければならぬが先ず自民党が抜本的に体質改善を行ない、早期に傲慢から脱しなければならぬ。

何れの政党が政権をとつても国家の根底がゆるがないという2大政党の出現がなく、また政治家でなく政治家屋が多く、また親子の世襲的現象のある政界は日本の体質であるかも知れないが、これが傲慢と腐敗の根付く原因であることを忘れてはならない。(元・三・二〇)

## 図書紹介

### 一、「天と海」常陸教導飛行師団特攻記録

連盟茨城支部 木村栄作(航士56期)編集・刊行

本書は編者が、特攻隊員119柱の鎮魂のため、20余年に亘る蒐集資料をもとに精魂込めて編集し、その靈前に捧げた貴重な記録であります。内容三章は、作戦の状況、隊員の遺影・遺書、遺族・戦友の追想等からなり英霊の顕彰これに過ぐるものではありません。ひろく会員各位にお薦めいた

します。

本書は、B5版367頁、写真多数、箱入上製本、頒価壹万円(送料込) 限定150部(全800部限定刊行) 御希望の方は、

左記へハガキで御申込み下さい。

申込み先 ㊦ 311-12茨城県那珂湊市本町10-18水戸つばさの塔奉讃会内「天と海」刊行会、電話〇二九二(六三)五一  
五五 郵便振替口座 宇都宮 九一四八八八番

### 二、元憲兵中佐 八十五翁 塚本万治郎著

「風雪八十五年」

雪深い木曾山中に生を稟け苦学力行して、見事陸軍士官学校に合格。満州事変、支那事変では共に武功抜群、功五級、功四級と二つの金鵄勲章受勲の榮に輝く著者は、その後、憲兵となり、終戦前後、東部軍戒嚴參謀要員、米軍接渉委員として縦横に活躍したが、戦後も亦、馴染薄い郷里の町長選に無手勝流で当選。三選を果した痛快極まる自伝。

巻末の郷友連、軍恩連、日本防衛協会等に献身する著者の英霊顕彰、防衛、憲法問題等々に関する透徹した所信は八十五翁今生における金言絶句でもある。

四六版 上製 五二五頁 定価二、五〇〇円ヒューマン  
ドキュメント社発行 当連盟扱。(編集部)





## 郷土の城(26)

### 横手城(秋田県横手市)

佐々木 信四郎

(城郭学者)

#### 一、横手の地

この地はみちのく横手盆地にあって、横手川が流れ、羽州街道の要路にある。

古くは代々小野寺氏がこの地を支配しており、天文年間に小野寺輝道が横手に築城したといわれている。

天正十八年(一五九〇)の太閤検地で、領主小野寺義道は二十万石ともいわれた領国を削られ、三万石となった。

その後小野寺氏は旧地回復のため、隣接の最上氏などと争いを起していたが、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の役に、失地奪還を策して上杉景勝に通じ、東軍徳川方について最上氏を攻撃した。

結果は裏目に出て、徳川方の勝利となり、慶長六年小野寺義道は領地を没収されて、石見津和野の領主坂崎出羽守に預けとなり、長年続いた小野寺氏の時代は終わった。

#### 二、近世の横手城

慶長七年(一六〇二)常陸の名家佐竹義宣は関ヶ原の戦いで徳川方に不協力であったとの咎によって、秋田へ削封され、久保田城(秋田市)を本拠とした。

横手城はその支城となつて、城代が置かれたが、寛文十二年(一六七二)佐竹一族の戸村十太夫義連(とつ)が入り、以後世襲して維新を迎えた。所領は一万五千石であった。

佐竹氏の時代になつて城は整備された。

大手門は南にあり、本丸は東西四十竃、南北九十竃で腰曲輪をめぐらしている。

二の丸は本丸の北にあり、その間に武者溜りがあった。

この雪深い外様大名の支城横手に、幕閣で権勢をほしいままにした本多正純(まこと)の墓がある。

巷間に流布され、講談で有名な宇都宮鈞天井の陰謀の張本人として、彼はこの地に配流されたとされている。

將軍秀忠日光參詣のおり、正純の居城宇都宮で、釣天井のカラクリによって將軍暗殺を計ったという話である。

事實は次のようである。

本多正純は家康の側近中の側近本多正信の子で、幼少より家康に仕え、その信任厚く若くして權勢を得ていたが、慶長十二年家康が駿府城に大御所として隠居したおり、家康に従って駿府にゆき、大御所政治の代弁者となつていた。

元和二年（一六一六）家康死去の際に、彼はその枕頭にあり、大御所の遺言と称して、小山三万石から宇都宮十五万五千石に榮進すると言ひ出した。

このとき宇都宮城には家康の外曾孫奥平忠昌がいた。この忠昌は未だ幼少で、その祖母が家康の長女龜姫であつて、將軍秀忠の十九才も上の姉に当る。

この忠昌を古河へ移すというのだが、古河より宇都宮の方が関東における要衝の地であつたから、加納殿（龜姫のこと）たちはこれが不満で本多正純の專横を憎んだ。

これに加えて、土井・酒井氏ら幕閣の要人もこの正純の「御遺言」と称して宇都宮の太守になつた彼の横暴に、その失脚を狙つていた。

元和八年（一六二二）、最上氏改易のおり、山形城受取りに向いた本多正純に、陰謀の疑いありとして、秀忠よ

り改易の沙汰があり、正純・正勝父子とも出羽国由利に配流となつた。

その後の寛永元年（一六二四）佐竹氏にお預けの身となつて横手に幽閉された。

佐竹氏らを転封、滅封思いのままに操つた正純が、まさか外様大名佐竹氏に預けられるとは誠に有為轉變の末路であつた。

釣天井の話は全くのフィクションではあるが、余りの權勢に幕閣内部からも疎まれて、失意の底に落とされた正純も自業自得かも知れない。

### 三、幕末の横手城

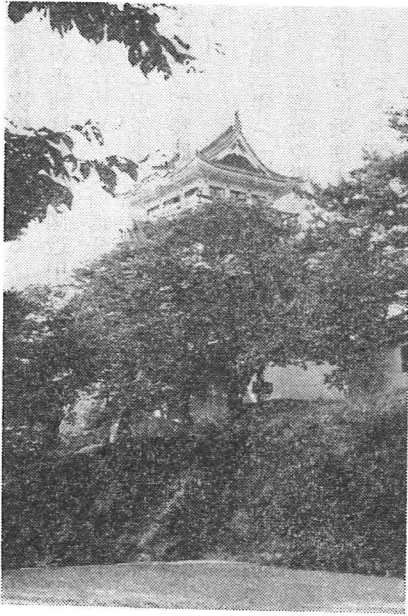
ときは明治維新となり、戊辰戦争のとき、秋田藩は薩長につき、奥羽列藩同盟と戦を交えた。

横手城代戸村義得は十九才ながら籠城して庄内軍らと戦つたが、利あらず城は炎上して大曲へ退き、横手城は陥つた。

その後政府軍が応援に参画して戸村氏は横手城を奪回した。

### 四、現在の横手城

二の丸跡には郷土史資料館の模擬天守が建てられ、一般



二の丸跡に建つ模擬天守

に開放されている。

現在は町の観光の目玉ともなっている「かまくら」は神座から由来するともいわれ、水神を祀る風物詩で、雪深いこの地方ならではの昔からの行事であって、雪の円い空洞の中に、綿の入った「どんぶく」(チャンチャンコ)を着、藁靴をぬいだ子供たちが、頬を赤くしてコタツを中に車座に坐り、餅やみかんなどを食べながら、冬の夜のひととき、遊びに興ずる姿は幻想的でさえあって、そのさざめきと楽

しい語らいの聲が雪に吸いこまれるようにここかしこで聴え、春まだ遠い横手の平和な姿である。

× × ×

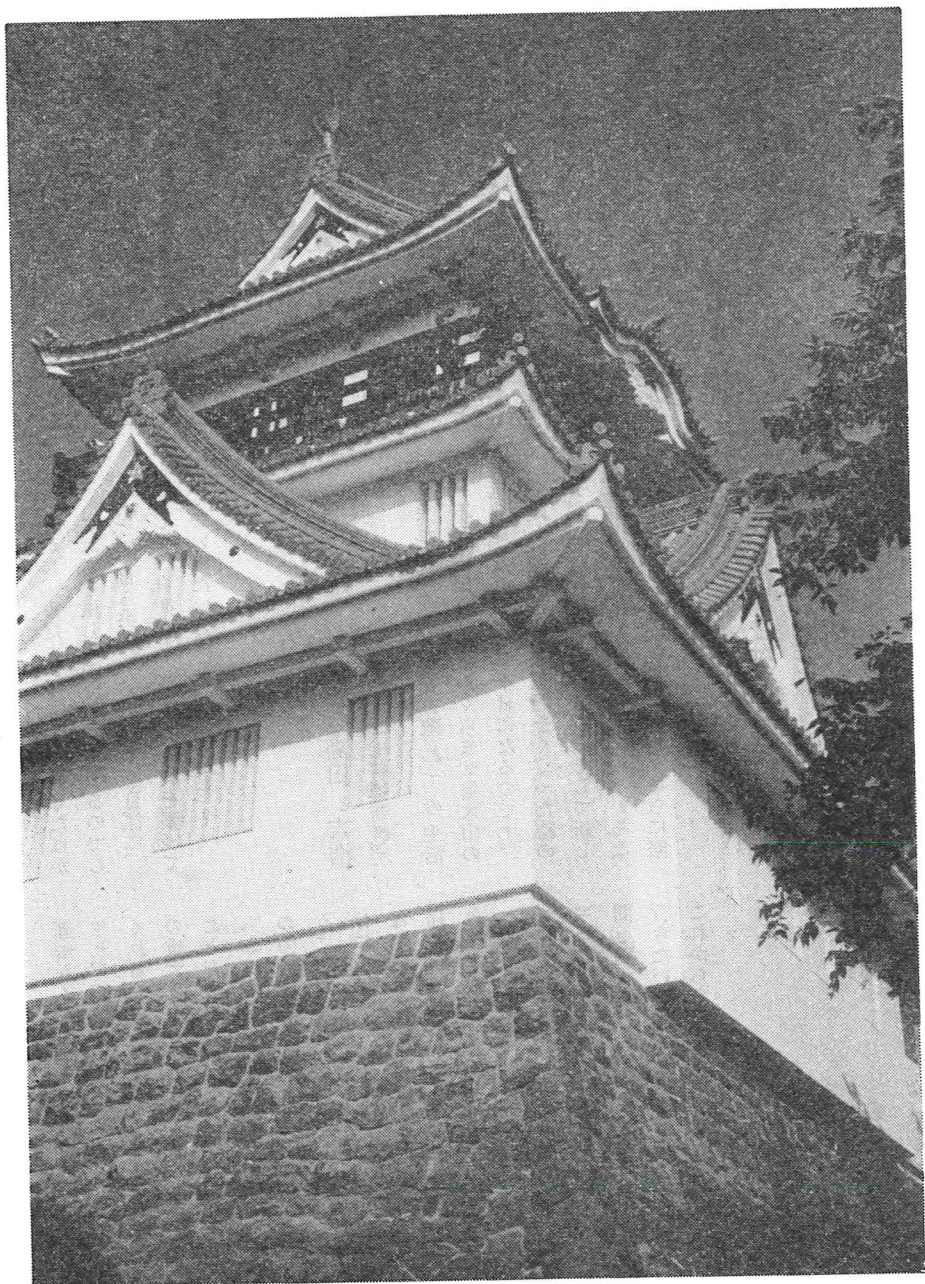
※P・35末尾より続く。

国に於ても敗戦の為失った戦争学、就中常識的軍事学の教育手段を構じ、「良民不兵」的旗印の下に無防備を提唱することは何れかの国の庇護下に入り国を失う結果になるので国会に於ても真剣な討議を行うべきで、今!!がその好機である。国民殊に政治家の再考、三考を望む……。

(平成元年七月五日、中共内紛に思いを馳せつつ)







模擬天守 郷土史資料館であって、石垣も形態も新しいもので、旧態とは無関係である。



# 自衛隊だより

―若き防人の手記―(朝雲より)

二陸士 進藤 勝敏

(板妻・三四普通新教)

「勝敏、自衛隊に行ってみないか？」この兄の言葉が私の入隊の意志を決める言葉でした。私の兄は、元自衛官で自衛隊のことはいろいろと話してくれました。免許が取れて男を磨けることや、自衛官の心のきずなは「親子」「兄弟」みたいに温かく強く結ばれているなど聞かされました。

他人同士が集まって親子、兄弟などとはうまく作った話だと疑問を抱いていました。しかし、自衛官としての道を歩み始めた今、その疑問も消え兄の話は本当だったのだと実感しています。

今まで不規則な学生生活から一転し、現在の規律ある団体生活のなかで、私は、同期の仲間とともに毎日楽しく過ごしています。

す。しかし、まだまだスタートをしたばかり、これから厳しい訓練も数々するのでしようが、「自ら挑戦」、この言葉を目標に、男として、自衛官として大きく胸を張って進んでいきたいと決意しています。

二陸士 島田 吉浩

(信太山・二七普通新教)

生まれて初めて、親元を離れての生活に、不安と期待で胸をふくらませ信太山の駐屯地にきてからもう十日になるのです。着隊した時、初めて正門をくぐった時の緊張は一生忘れないでしょう。そして新しい住まいになる新隊員隊舎で、いろいろな所から集まってきた仲間と会い、さらに緊張は高まっています。

真面目そうな人や面白そうな人など、いろいろな人がいました。これから一緒に厳しい訓練をする仲間だと思うと、学校の友達とはまた違った感じがしたものです。自衛隊での生活は今までの生活とは全く違った生活でスタートしましたが、未知で

新鮮なものです。一日の日課が秒単位で組まれ、団体生活の難しさと面白さを教えてくれる一方、自衛隊の本当の姿と国の防衛の重大さ、そして友達の大切さと助け合うことを教えてくれます。

お父さん、お母さん、私は今、自分自身の力で旅立とうとしています。今までのように名前を呼べばすぐそばにいるというわけにはいかないでしょう、ですが寂しがりないで下さい。しばらくの辛抱です。今度帰る時は、今の私より一回りも二回りも大きくなってお父さん、お母さんを驚かせることでしょう。その日を楽しみに待っていて下さい。

今の私は、まだまだ未熟ですが楽しい仲間と励まし合いながら、共に日々前進して行きたいと思います。お父さん、お母さんこれからも私を見守っていて下さい。

二陸士 溝江 勇人

(青森・五普通新教)

僕はもともと進学を希望していた。実



際、試験にも合格し、進路が決まっていた。しかし、金が無いため断念せざるを得なかった。進学を実現させるには就職して金を蓄える必要があった。

そんな時、友人から自衛隊の話聞いたのだ。『衣食住がタダで給料が高い』というものだった。ちょうど自分に合っている職業を模索していた時だったので、その旨を親に話して検討した。

クラスメートの自衛隊に対する評判は必ずしも良いものではなかった。朝五時に起こされて山を走らされる、蛇を食わされるとか目かくしをしたままヘリコプターで山に連れて行かれ、地図を片手に一人で帰ってこなければならぬ……と悪いことばかりだった。

しかし地連の広報官と接するようになって、そのようなことは単なるおく測にすぎないことが分かった。その結果、入隊を決心して三月二十七日、住み慣れたわが家を後に青森駐屯地に着隊した。

着隊して意外に思ったことは、休む暇もないほど動きまわるものだと思っていた自衛隊が、思ったより暇だということだっ

た。しかしこれは入隊式前で「お客様扱い」だということを知らなかつただけであった。支給された戦闘服や制服は格好よく、素晴らしいと思った。特に戦闘服の着ごころは良い。

教育隊修了後は通信関係の仕事に従事して、いろいろな免許を取得、貯蓄に励んで自分を鍛え、一日も早く立派な男になりたいと思っている。

## 二陸士 久保 歩

(小倉・四〇普通教育隊)

三月二十八日、私は小倉駐屯地の陸上自衛隊に入隊しました。高校を卒業して、自衛隊入隊を選んだからは、希望と心配や不安でいっぱいでした。

入隊して約十日間たつてみて、洗濯、ベッドメイキング、ロッカー整理、靴みがき、裁縫などやってみて自隊官として頑張っていけると思いました。次に一番不安だったのは起床です。朝六時に起きられるかと思っていたら、ラップと班長の「起床」の

大声が目がさめました。次に、班長が優しく、頼りがいがありそうなので安心しました。だんだんと不安が解消しました。

四月七日、私たちの入隊式です。予行練習ではさすがに疲れましたが、入隊式では、緊張して告達の時、宣誓文と誓約文を代表の人に続いて読む時は声が出ないのではないかと思いましたが、でも、同期のみんで最高の入隊式ができたと思います。

入隊式には父がきてくれました。この入隊式は、私の人生で大きな思い出になるでしょう、学校の入学式と異なって私が学生ではなく、社会人としての一歩であるので、入学式以上に気が引き締まりました。着なれない制服や制帽をかぶって敬礼をする時、やっと陸上自衛隊の隊員になったのだと実感しました。

連隊長の式辞や来賓の方々の激励の祝辞を聞き、その激励を胸に秘めこれから頑張っていこうと思いました。特に連隊長の言葉「大きな声を出す」「敬礼をする」「駆け足をする(汗を流す)」——この言葉を実行して、一日も早く立派になって国民を守る一員になろうと思っています。

# 自衛隊今は昔の物語

牧野良祥(元防衛庁航空幕僚監部・二佐)

## ショートル市場のガキ大将

### 一大決心

満州に来て嬉しかったことのひとつは、食物が豊富にあることだった。運配欠配の続く内地と違って、白いお米の御飯が腹一杯食べられるだけでなく、今まで見たこともない美味しいお菓子も、欲しいだけ食べることができた。

内地にいるとき、集団疎開などでひどい思いを、いやというほど味わってきたおいらにとって、満州はまさに“天国”のようなどころだったのである。

ところが、敗戦とともに状況は一変してしまった。わが家の食卓からお米の御飯はとくに姿を消し、代わって登場したコーリヤン飯さえも、次第にその量が少なくなっていく。欠食児童の経験を持つおいらは、少々のことではへこたれなかったが、内地のときと違って街中には依然として食物が豊富なのに、収入が皆無

のため、横目でそれを見て通り過ぎなければならぬのが、前以上にコタえた。また、集団疎開で神奈川県

の山奥にある寺にいたとき、空腹に耐えかねて、仲間と墓場にいる赤蛙を掴まえては焼いて喰った頃と、あまり変らないなあなどと思ったりもした。

この“欠食児童”の期間は、翌年の夏まで続き榮養



え 柏木康武(元三等空佐) Osamu Tezuka

失調のため当時五歳だった末の妹を引き揚げ列車の中で亡くすという痛恨の想いを味わうことになってしまった。名も知らぬ荒野に列車が止まったとき、停車時間を利用して茶毘に付し、その遺骨を故国に連れ帰ることができたのが、せめてもの慰めといえるかも知れない。昨年亡くなった母が、死んだら妹に逢える、と

ポツリともらした言葉が今も耳を離れない。おいらにとって満州は“天国”どころか、本物の地獄だったのである。

さて、人々は売り喰いの品物が底をつきはじめると、窮余の一策として自家製のアメ玉や大福餅などをつくり、街角で売ったりして、その日の糧を得ようと必死になった。

子供心にも、わが家の窮状を肌で感じ、やつれた母さんの姿を見るにつけ、おいらの小さな胸は痛んだ。思いあぐんだおいらは、ある日、一大決心を胸に、家を一こっそり抜け出した。街角で大福餅を売り、稼ごうというわけである。

話に行った餅屋さんは、最初チビのおいらを見て相手にしてくれなかったが、おいらの熱意に根負けし、とうとう餅を貸してくれた。

生まれてはじめて、おいらは街角に立った。

(元航空自衛隊連合幹部会機関誌「翼」編集者)

# HOTEL NEW OKABE

「すべてのお客さまにご満  
足いただけること……。」  
これがホテルニュー岡部のモットーです。



日光国立公園／鬼怒川温泉／政府登録国際観光旅館  
〈鬼怒川〉

## ホテルニュー 岡部

〒321-25 栃木県塩谷郡藤原町大原1400 ☎0288-77-2611(大代)  
案内所／●東京☎03-254-2645 ●横浜☎045-661-1671 ●仙台☎022-265-0933  
●名古屋052-571-5660 ●大阪☎06-304-7998



# 老化防止の手引き

戦後に於ける医療の進歩や食生活の改善

によって、男女とも生存年齢が増加しております。昨今の統計では特に目覚ましいものがあります。併し長生きをしても、呆けた老人の余世では本人は勿論傍に迷惑をかけるのみで何の意味もありません。

さて、老化は人間の宿命と言われますが先づ自分の老化度をチェックして実情を把握しこれに対する対策を考えて実行すること、それに老化を進める生活態度等を改善することは快適な老後生活を送る一つの指針になると思います。

次に参考事項を挙げて見ましょう。

## 一、頭脳や心の老化度チェック

- 1、電話番号がおぼえられなくなった
- 2、度忘れがはげしくなった
- 3、勤がにぶくなった
- 4、根気が続かなくなった
- 5、知人の名前が思い出せない
- 6、すぐ、ぐちをこぼしたくなる

## 7、短気になった

8、面倒くさい気持が先に立つようになった

9、うたがい深くなった

10、涙もろくなった

11、他人にわずらわされるのがいや（一人 でいたい）

12、ひがみっぽくなった

13、聞いたことや読んだことをすぐ忘れる

14、昔話をするのが楽しい

15、本を読むテンポが落ちた

16、マンガの意味がピンとこない

17、若い人たちの言動が気になる

18、けちになって来た

19、昔のように好奇心がわかない

20、早朝に目が覚める（昔より眠りが短い）

以上の諸項目に該当するものが増してくると老化が追々進行しているものと考え定

期的（最低一年に一回）健康診断を受ける

ことが必要となります。その結果どこも悪いところがなかったら毎日20〜30分続けられる全身運動、速歩、ジョギング等続けると若い体力を保つために有効であります

## 二、老化を進める生活態度のチェック

あるていどの老化は生理現象として認めなければなりません。五感を中心とした心の老化は、その人の生活態度や心がけでかなり遅らせることが可能です。そこで老化を促進する悪い生活態度をチェックして見ましょう。

1、頭は使わず、気（神経）ばかり使っている

2、ヘビースモーカー（一日20本以上）

3、長年酒びたり（毎晩適量オーバー）

4、食事が不規則

5、運動はほとんどしない

6、趣味も余暇も持たない

## 三、五感の働きをよくし、頭脳や心を若く保つ方法

### 1、自然浴

大気浴、森林浴、水浴など自然を体いっぱい浴びること。

大気浴の効用は、空気中のイオンや紫外線によるもので、副交感神経や交感神経を適度に刺激して、自律神経の調節をはかります。

森林浴は、とくに五感の回復によいといわれますが、森の緑や野鳥のさえずり、樹葉から発散するテルペン（木の香り）などが、目や耳や鼻などに心地よい刺激を与え、心や体を休めてストレスを解消します。

水浴（入浴、温泉浴）の効果は、清潔と温度、水圧、浮力などによる物理的な作用ですが、近頃流行している温泉は、温泉水に含まれる化学成分が、健康づくりにプラスの作用をします。

一年に一〜二回、自然浴の旅に出ると、老化はテンポを落とすことでしよう。

## 2、食生活

三度の食事時間を守る、なるべく多くの種類の食品をまんべんなく食べるなど、健康維持に欠かせない食事の注意を守るほか、お酒は日本酒なら二合ビール中瓶二本、ウイスキーならダブ

ルで二杯までという適量を守ることもたいせつです。

3、一日の疲れはその日のうちに取る  
毎晩の入浴がなにより手近で効果的ですが、就寝前に入浴なら四十度前後のすこしぬるめのお湯に、ゆっくりつ

# 嗅覚異常を防ぐ知恵

最近では、化学的な香りが満ちあふれているため、早春の風に乗る沈丁花やふくいくとした梅の香り等自然の香りがわからない症候群が増えています。

この嗅覚異常を防止するための生活法を参考迄にお知らせしましょう。

対策1 変なにおいを出さない  
悪臭を吸わなくてすむよう、変なにおいを出さない工夫が第一です。

住宅なら、よく掃除をしたり、整理整頓して、ごみやほこり、カビなどとは無縁の清潔な生活をこころがけること。

体臭予防には、体や毛髪を清潔にこころがけること。

かることです。

これで、その日の疲れがとれ、血液の循環も調節されて心も体もおだやかなるので、ストレスもとれ、よい眠りも約束されて、脳の老化を防いでくれます。

対策2 鼻の病気を治しておく

鼻茸（ポリープの一種）、慢性鼻炎、慢性副鼻腔炎、鼻アレルギーなどの鼻の病気を持っている人は、面倒がらず、早く、完全に治しておくこと。

鼻の病気が原因の嗅覚異常は、治療で治せるので、一日も早く治療すること。

対策3 脱臭を心がける

においの元を燃やしてしまえば、においは消えますが、建物内においては、換気すること、かなり改善されます。

窓を開ける、換気扇を回す、また、戸棚や冷蔵庫などには、脱臭剤を置くことの外に腐った食べ物をおかないこと。



# 地方だより

## 石川県支部だより

舞鶴地方研修旅行終る

石川県支部では、六月二〇日と二一日の両日にわたり、年度の計画に示された研修旅行を実施した。

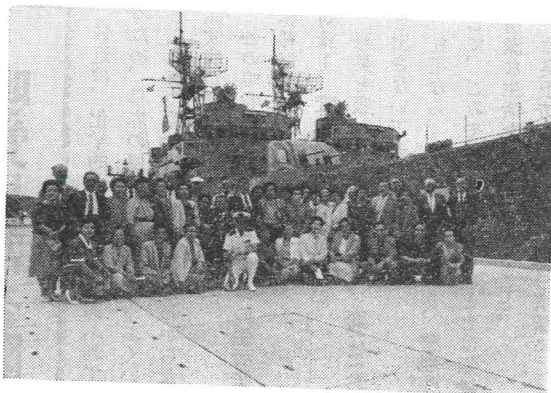
第一日目は海上自衛隊舞鶴地方総監部を訪問し昼食には同隊心づくしの部隊食の体験喫食に与かり、その後、記念館の見学・停泊中の「護衛艦よしの」の見学を行ない、引き続き同市宇平にある「引揚記念公園」を訪れ往時をしのんだ。

夜は石川県出身幹部を支えてこん親会を行ない激励した。

第二日目は「天の橋立」、「成相寺」等、名所・旧跡を訪れ、最後に「若狭和紙の里」で和紙製造工程、紙すき体験をして終った。

(参加人員、約五十名、男女会員とも)  
なお計画は別紙のとおり。(別紙割愛)

編集部)



## 東京都支部だより

四月十三日、世田谷区郷友会では、加藤義秀会長外役員三十一名、衆参議員、東京都郷友会理事長、自衛隊関係者等多数列席し、平成元年定時総会を催した。大先輩の九十四歳有末精三さんも出席され、相変らずの元気な声でご挨拶をされた。

国民儀礼の後、加後会長から、会員一同に対する協力の感謝と、平成時代の国際的に多難な今、日本郷友連盟存在の意義の大きさを述べ、変らない協力の要請をされた。

ついで昭和六十三年度の事業経過、会計報告があり、本年度の予算案、事業計画案等を承認して結んだ。また本年も、八十歳にいられた六名の会員に、祝い品を差上げ、一層のご健康を祈った。

加藤会長はまた、本年度の事業開始に当り、中国の民主化運動にも言及し、併せて今後に於ける我国の国民教育のあり方の、大切な事にもふれていた。またアメリカとの貿易摩擦や、国内に於ける新内閣誕生による時局認識にも及び、会員の一層の郷友会行事への参加を期待された。また会員の状況の説明もあり、役員の一部変更等の説明があった。

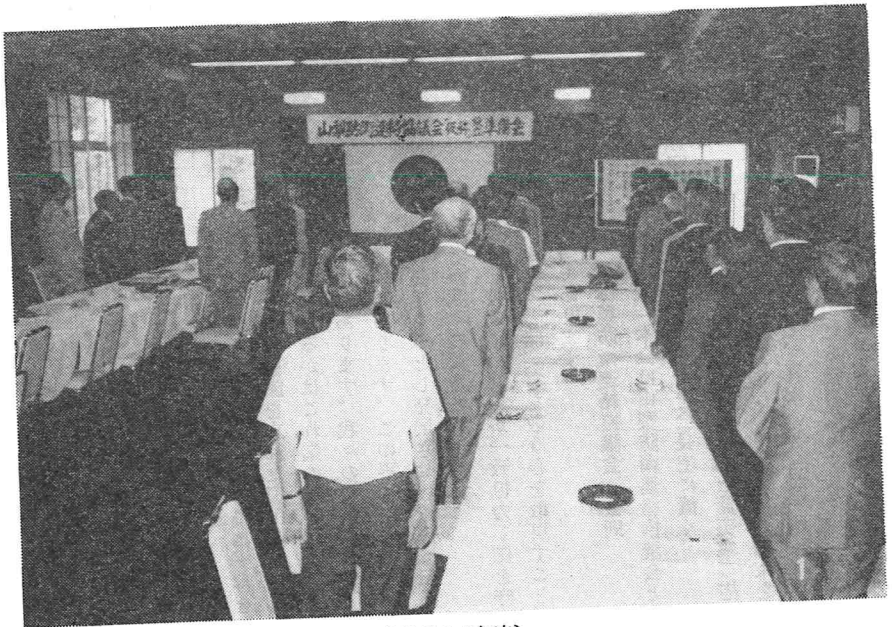
懇談会では、終始和やかな談笑のうち、益々親交を深め盛会裡に閉会した。

## 山梨県支部だより

去る七月一日午後二時より護国会館において日本郷友連盟山梨県支部、隊友会山梨



(役員挨拶)



(英霊に黙禱)



県支部外戦友団体四十八会、隊友会、自衛隊父兄会、自衛官募集相談員、隊友会OB会、等の代表五十名集合し、来賓として自衛隊地方連絡部長、北富士駐屯地司会、北富士駐屯地業務隊長等ご臨席の許で「山梨防衛連絡協議会」設立準備会を開催した。

一、開会のことば

二、国歌斉唱

三、英霊に対して黙禱

四、発起人代表挨拶

五、経過報告

六、議事

1、会則の審議決定

2、役員選出

3、新会長挨拶並びに役員紹介

4、事業計画案、予算案の審議

七、閉会のことば

準備会終了後懇談会を開催しご来賓の祝辞に続いて相互に国家防衛について意見を交した。

◎役員

会長 原 貢 (郷友県支部会長)

副会長 山岡佳年 (郷友県支部副会長 隊友会長)

矢崎 忠 (軍恩連会長)

理事 各団体の長

幹事 坂本規光

日向昭三

監事 長田 静

川手嘉久

◎事業計画の概要

1、九月下旬護国神社祭典前に神域清掃

奉仕

2、十月十五日創立総会の開催

3、同日防衛講演会(講師郷友連に要請)

4、機を見て戦没者慰霊の実施

5、青少年の研修会を北富士駐屯地又は

護国神社に於て開催

6、皇居勤労奉仕団へ参加

7、明年度郷友連の「防衛講演会」の実

施を申込む

山梨防衛連絡協議会設立趣意書

日本に生をうけた者として何より忘れてならないのは、わが国の平和と独立を守ると言うことでありましょう。

戦後の教育では「戦前の日本はすべて

悪」とされ、国防の問題はタブーとなり、

現在の平和と繁栄が諸英霊の上に築かれて

いることすら忘れられているかのように思

われます。

このような風潮から、「人のために」「社会のために」と云うことはもちろん「国の為に尽す心」が失われ、「諸英霊を敬う心」が忘却されつつあることは憂慮すべきことであります。

国を守る心を怠り、国の為に一身を捧げた方々への感謝を忘れた国民がどのような道をたどるかはこれ迄の厳然たる歴史の示す所であります。我々の憂慮もここに発するのであります。この平和で豊かな国を更に良きものとし発展させ、子孫に伝えることが我々の責務であります。

その為には我々が一致協力し国を守る心を育て、諸英霊を敬う心を取戻すことが必要であります。

山梨防衛連絡協議会 会則

第一条 本会は山梨防衛連絡協議会と称し事務所を会長宅に置く。

第二条 本会は国土防衛と諸英霊の慰霊顕彰を願う県下諸団体の結束をはかり、日本の健全な発展に寄与することを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため

次の事業を行う。

- 一、防衛思想の普及高揚
- 二、諸英霊の慰霊顕彰
- 三、其の他本会の目的達成に必要な事業

第四条

会員は本会の目的に賛同しこの事業に協力する団体及び個人をもつて構成する。

第五条

本会に次の役員を置く。

- (1)、会長 一名 (2)、副会長 二名
- (3)、理事 本会に加入する団体の長
- (4)、幹事 二名 (5)、監事 二名

項六条

本会の役員は次により選出する。

- 1、会長及び副会長は理事の互選により選出する
- 2、幹事及び監事は理事会により選出する

第七条

役員は任期は二年とする。但し再任を妨げない。

第八条

本会の役員は次の職務を行う。

- 1、会長は本会を代表し会務を統轄する
- 2、副会長は会長を補佐し会長事務

故あるときは会務を代行する

- 3、理事は理事会を構成し本会の事業の遂行をはかる
- 4、幹事は本会の庶務、会計事務を行う

第九条

本会の会議は総会及び理事会とする。総会は年一回開催するを例とする。理事会は必要により会長が召集する。

項十条

会議の議決は出席者の過半数で議決し、可否同数の場合は議長がこれを決する。総会及び理事会の議長は会長が当る。

第十一条

本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第十二条

本会の経費は分担金其の他の経費をもつて充当し、防衛研修、會員の親睦等の事業を行うに当り必要な経費は其の都度参加者が負担する。

第十三条

本会の事務を処理するため事務局を設け、事務局の構成は理事会において決定し、任期は役員に任

付則

期と同じとする。  
この会則は平成元年七月一日より施行する。

郷友基金

名 芳 者 金 釀

(受付順) (敬称略)  
(通算第4回目)

(石川県支部扱)

山崎豊師

(富山県支部扱)

瀬川時造



野島 一良選

岩国 村井 一露

沙羅の花夜明けの霧が海へ去る

この句の『霧』は勿論夏霧である。海へ早暁の霧が消えてゆくのを海へ去るといって詩情を誘う。そして其処に沙羅の花の白が爽やかに見えている。この夜明けの霧を、仮に『夜明けの霧』と置いて考えてみたい。二つ較べて何度も詠み返してみて下さい。沙羅の花には、なるほど『霧』だなと感じられるでしょう。こういう敘情性の強い句は村井氏のように句修業を重ねて自然に出るようになるのが望ましいので、それよりも次、

遠雷を聞きつつ旅の切符買ふ

このような句を励むべきだと思います

伊豆の温泉に心くつるぐ青葉木菟

百日紅怒濤寄せつつ島暮るる

こてふ蘭障子の中の釜たぎる

那智山 井本 友敏

滝つ瀬を飛ぶとき光る岩つばめ

急流のしぶきが光る。その中を岩燕が飛んだ。光って飛んだのです。飛ぶとき、ああ岩燕だ。この短い時空が、よく引き締まって描写されています。

胡弓の音いとも淋しや風の盆

一列に鳥賊火燃えをり岬の鼻

二句とも坐五よく締まり力づよし。

紫陽花の百花の溪となりけり

余生には余生の道や菖蒲風呂

菖蒲風呂はまことに適切。ゆったりと湯に浸って来し方を憶い、これから着想している自画像は美しい。

神戸 泉 美冴

蟬しぐれ負けずぎらいの児の返事

母と子か、母と子を祖母として眺めての句か。どちらにしても母子のやりとりが見えてくる。と、外は蟬しぐれの世界である。という句だと思えますがこの『負けずぎらい』には作者の心の反映があるように感じられるが、如何。

夕顔や茶の間の客の里なまり

飛行機音きえてゆきけり雲の峰

よれよれの生きざまおほふ夏すだれ

井本氏の『余生には』の句は大らか。

この句の激しき。それぞれの個性と環境といったことが伺えるようです。負けずぎらいの児のおぼあちやまの、その中に泌められている激しきを感じさせられもします。鑑賞者の私の頭に描いている世界だけのものかも知れません。勿論この句の場合、第三者の写生かも知れませんが、夏すだれ越しの面魂が見えるようです。

高砂 柳 穂水

蚊火匂ふテントの上の北斗星

初蚊帳を安住のとりでと思ひけり

心境の句は兎角、言い過ぎて嫌味のある句、又は独善がりの作品になってしまふことが多いのですが、今月は不思議と井本氏、泉氏とならんでこの句も佳什。人生経験を積んでこられたことの発露が力みのない表現となったのでしよう。

蟬しぐれ読経のごとく原爆忌

ふといのち惜しくなりにし終戦日

松山 青野さみえ



勤行の木魚に覚めて明易し

病名の判らずじまひ夜の秋

写経の筆遅々と朱の色仏桑花

金沢 高桑 與三

軒下に十葉干せる余生かな

宵闇の道を灯して月見草

秋立つや昨日に変わる今日の風

武蔵野 鶴間 俊子

鳩居堂出でて街角巴里祭

落し文風に吹かれて宙にある

故郷に帰りて夫の大昼寝

松江 大橋新太郎

洪水に崩れし土手の曼珠沙華

休み田に境界はなし曼珠沙華

曼珠沙華跡切れし土手をつなぎけり

横須賀 大関 不撓

夏を売るここ蔵前の問屋街

海軍の兄の形見のパナマ帽

寿といふ蕃茄のまろき味

日立 内田 定夫

飽食の子等を戒しむ終戦日

色褪せし老の入れ墨冷奴

蟬の声一撥のごとし雨後の宮

佐世保 青山 宇宙

掻き終えし代田ひろびろ夕日映ゆ

このように素直に写生されると余韻の

ある句になります。

緑蔭やゲートボールに負けし組

梅雨明けの兆しの遠雷きこえをり

瀬戸 中島 陶村

雲の峰を引寄せ引寄せ登りけり

高原にうかべる雲と黄すげかな

飯島取骨行

錆筒に赤き花供ふ木下鬧

春日市 林 藤雄

安全帽顔に蔽ふて三尺寝

サンガラス外せば柔和な顔にして

石川 松枝 外也

俱利伽羅の奈落蔽いし葛の花

老斑の増えししみと敗戦忌

岐阜 福井 利子

耳鳴りもやうやく慣れて盆支度

汲み置きのお石の水や秋早

仙台 若生 葛旬

地下鉄の階段涼風来りけり

遮断機が下りて青葉の匂い来し

玉野 三村 白柳

初蟬に写経の朝の筆を執る

干からびし島の舗道や平家蟹

神奈川 仲手川 藤吉

肌脱いで肋をみせて水を打つ

夕立や阿夫利山よりまっしぐら

福島 秋葉 紅風

雨飛沫く玻璃戸にしかと蝸牛

果樹園の明るき村へ帰省せり

東京 石井 清勝

終戦の日のごと九段蟬しぐれ

空蟬の吹かれて枝を離れざる

東京 藤田 正路

梅雨晴れ間白蝶軽くとびにけり

大輪の朝顔誇る路地住居

東京 原田 苔石

クーラーの部屋に駆けこむ妻なりし

下駄の音近づく素足の白さかな

岡山 三田 久代

黄緑の白樺林に初夏の風

夕涼や海浜ホテルの庭歩く

久留米 執行みおる

木登りを楽しむ児等の夏休み

岐阜 松野 啓子

土用梅雨降るらしととりこみし

新盆に遣影を飾る違棚  
干葉 岡田 正秋

大向日葵妻が見上げてをりにけり  
山梨 佐竹 俊明

軒下の竿の端なる吊葱  
藤枝 渡辺 いつ

前月分補遺

黒揚羽落付きみせて秋立ちぬ  
東京 藤田 正路

客去りし冷房切つて憩いをり  
山梨 佐竹 俊明

○ ○ ○ ○  
季題について

『俳句も詩でありますから、吾々の感情をうたふものでなければなりません。が、俳句には季題といふものが必要でありますから、その季題を通して感情を詠はねばなりません。俳句は季題を通じて感情を詠い、又季題の刺戟を受けて感情が躍動する、つまり季題と感情とが互に相援け合つて生れるのであります。』と虚子は俳句読本に述べていられる。その虚子の花鳥諷詠は、かの芭蕉の『風雅におけるもの、造化にしたがひて四時を友とす。見る所、花にあらず

といふ事なし。おもふ所、月にあらずといふ事なし。』と相照合する提唱であります。

近 詠

原爆の憶ひ西日がざらざらす  
夕蟬に原爆ドーム弧なりけり  
盆の月原爆ドームに懸りけり

野島 一良

○ ○ ○ ○

投句締切 毎月十五日までに必着(翌々月号で発表)。当季雑詠五句内外。葉書に判り易い字体で。

宛先 186 東京都国立市東二一二十一十六

野島 一良宛



森 武次選

前福島 伊藤喜代子  
訪なひて香をささぐる人のあり梅雨晴近き  
午後のひとつき

梅雨晴れて稜線しるき連嶺に早や湧きのぼる雲の峯かな

前東京 勝又 正弘

古里の豊かなる自然見直して妻と連立ち散

歩するなり

前神奈川 仲手川藤吉

幾千歳波浪削りし岩礁を落日赤く染めてきらめく

老先の短かきなげき酒汲みて軍歌唄ひぬ友の老兵

前島根 長岡 利勝

召され征く前夜を妻に子を成して友は硫黄島の骨と消えたり

夫征かせ未亡人となりて五十年君きよらかに老い給ひたり

前高知 中平 憲白

道すぢの芙蓉はのびて塀高く色とりどりの花を咲かせり

幾度かの庭のいぢりに花絶えし桔梗ひともと鉢なかに萌ゆ

千葉 植弘 親孝

孫に送る荷物を担ぎ雨中を行けば下校の子ら道を開く

ペコニヤの赤白ピンク咲き競ふ施設の子らの作りし花壇に

○微風に日照も凌ぎ易くなり木陰に萩の花も咲き初む

東京 石井 清勝

敗戦のあの日と同じ蟬しぐれ感慨深く九段坂行く

妻子連れ息子は立てりニューヨーク企業戦士の尖兵として

○鳴渡る流人太鼓の乱れ打ち離島の夏はくれなゐに燃ゆ

東京 坂 美貴子

静かなる雨音に連れ郭公のいづくに啼ける柔らかき音色

安らげき宗教講座終り告げテレビ敵しき討論会に入る

揺らぐ影窓開け見るにほの白く隣家のむくげ目の前にあり

東京 松田千代子

祖父恋ひて蟬放ちやる幼らにこほろぎやさしく草むらに鳴く

水あそび明るき声の浜に満つ吾にもありし子育ての夏

神奈川 大関 民雄

五百年前に栄えしインカ国細々生くるインデオの末

参院選与野党遂に逆転す不安の続く政治情勢

神奈川 仲手川藤吉

蒼茫の湖まなかひに広こりて片寄り静む白き流木

ときじくの霧立ち渡る弥陀ヶ原神の廻か花の蕊は

岐阜 松田 要二

血原なる里を流るる姉川の鮎ら口紅さすと言ふなり

小谷城落ちたる後の非命かもお市の方を巡る哀史は

兵庫 中塚嘉一郎

一日を生きてその日を喜べる残り少なき老いの果てかな

○富もなく名もなきすとも清らかに生業はげむ人に幸あれ

岡山 三田 久代

大山寺のミニミニ鈴は歩くたび氣をつけなされと腰に鳴るなり

み仏の眠りたまへる墓所に立ち曾孫と共にお経捧げり

広島 河野 洋曹

生甲斐の妻との対話今日はなし腰を痛めて暫し入院

高知 中平 憲白

台風の余波をうけての大雨に高校総体ひこ

と氣になるしけのあと残りし雲に陽の差して燦燦と照る白金の如く

人の道教育勸語これだけは拳拳服膺幾末までも

連休日雨降る音を聞きながら独り楽しく自分史綴る

病院ゆ杖を頼りにたどりつき足腰のばす自宅のベッド

都心部の晚翠草堂その裏に土蔵造りの店舗めづらし

最上川のどかに下る舟旅はのたりのたりの初夏の風物

最上川瀬見の川瀬の釣り人は此処山里に夏を呼び居り

昇る日をわが背に受けて道行けば縮み行く影われを慕ひ来

○とし毎に花の数増す庭先の野百合に思ふ炭焼きし頃

長崎 荒木あけみ

宮城 若生 活穂

宮城 高橋 覚

千葉 岡田 正秋

岡山 三村 白柳

巡り来る傷痕痛む敗戦日比島マニラで聞きし玉音

俘虜となり生きて故国の土を踏み四十四年の月は去り行く

高知 弘瀬清一郎

○旅をゆく友が絵はがきさいはての宗谷の海はあくまで青し

高知 鈴木 護

梅雨明けし空かと思ふ中空に今宵は清に半月かかりぬ

高知 中田 憲秀

韓国の青紫の水晶は小粒なれども妻を艶やかにす

高知 大畑 元宏

大川に夕霧立ちて堤辺の木立浸して溢れつつ流る

高知 古谷 進

北辺の離島に巖と聳え立つ雲いだけける利尻富士はも

東京 石橋 松茂

手術室に入りし吾が娘を見送りて孫等と待つ間の長さ一日

◎待ち居りし手術終りて担架にて戻り来し娘にただ目を合せたり

◎評・結句、祈りに似た父親の深い愛情をさりげなく詠んで読者の胸を打つ。

近隣の家次々に新築す吾老いてこの陋屋を愛す

○評・「羨む」ことなくんば心の富者。結句、「愛す」が効いて居る

◎選後小記

○今月は、二七名、一〇〇首の中、五一首を採った。石橋松茂氏の一首を秀歌として推した。

○楷書、原稿は、月一回、十五日迄、直接、左記へ。

◎24川崎市多摩区西生田三―二三―三

森 武次宛

選者詠 蚯蚓死す  
傘させど山路の雨は袖濡らす鳴く鶯も濡れて居るらむ

焼鎌の敏鎌をもちて青草を刈らむと今朝も家を出でたり

敵將の写真を燃せばめらめらと忽ち燃えて灰となりたり

蚯蚓死す蚯蚓の如き候補死す風に乗りたる人も死ぬべし



大森 風来子選

東京部 石井 清勝

退陣は芸者ワルツの曲に乗り

初登院マドンナやっぱり厚化粧

カセットに声を残した山男

天国はひびりさえずる日々となり

評||どの句も一読明解である。それぞれ社会の断面があり、鋭く作者の目でとらえた作品である。

広島市 坂井 愁山

国民は納得のゆく税を待ち  
酸性雨国境などは知らず降り

評||自然破壊を憂う今日この頃であるが、自然は地球のすべてがふるさとであり、国境をはさんで戦っている人類をあわれんでいるようにも思える。

日本が熱帯雨林を買いまくり

評||これを敢えて私流に解釈すると、三八式歩兵銃を持って南方に進駐した私たちよりも、平和裡に世界へ侵略し、自然を破



壊し、営利を目標にした企業の体質と比べ、どちらに軍配があるだろうか？  
天災に人災加え土砂崩れ

仙台市 若生 勝緒

参観日手をあげる元氣ほめられる  
片カナの会社名ビル群がふえ  
戦える若手に門戸開かれる  
いまの世も散り際大事にvariなし

玉野市 三村 白柳

こらしめのお灸で稼ぐ社会党  
椅子を去る三点セットに小指付き  
三頭を揃えて表紙塗りがえる  
婦人二人難段にすえ船出する

佐世保市 荒木あけみ

梅雨明けも自民の達磨動かない  
追い風で吹き飛ばせるか消費税  
追い風が神風となり社党伸び  
冬眠の自民ようやく目を覚まし

岡山市 三田 久代

座禅草大樹の下で念仏行  
横文字辞書をめくって見当らず  
リクルートの熱湯飲まされ秘書は消え

岐阜市 松田 要二

先見の明は鋭し伊東さん

尻ぬぐいご苦労でしたおとどどの  
光秀の三日天下は永かった

評||いずれも自民党政権のあわてぶりと  
タライ回し政権とその後に来るものを暗示  
している。

久留米市 執行 友好

自民党構造疲労の赤ランプ  
朝シャン族水道の水使い過ぎ  
観戦のスポーツ疲れというもあり

島根県 山根 陟

終戦記念日を迎えて(三句)

銃剣を捨てて気楽な捕虜になり  
和服着た女性なつかし慰問団  
戦場で玉音聞いてつのる帰心

岐阜市 松野 啓子

みどり野にマドンナとまごう案山子立ち  
国忘れ次郎長忠治の外題げぼ以下  
評||二句とも国を憂う女の心がにじみ出  
ている。政治家は、国のために働いてほし  
いという願いがこめられている。

千葉県 岡田 正秋

敗戦の罪に総理の色気沙汰  
土用波自民を襲う消費税

(選者に)八月は、私にとっても敗戦の  
報を北ボルネオのジャングルの中で聞いた  
あの日が忘れられない。

さて今月も熱心な皆さまの投句をいただ  
き、私自身も身のひきしまる思いで選句に  
あたりました。ありがとうございました。

投句は、はがきで五句、毎月十五日まで  
に左記へ。

〒701-42 岡山県邑久郡邑久町山手 選者宛  
(郷友柳壇と明記)

### 訂正

九月号俳壇、61頁、中段、大関不撓先生  
の句に次の誤植がありましたので訂正致し  
ます。

第一句 「清纯の」を「清纯な」に

第二句 「しるしと」を「しるしの」に

第三句 「乳鶯」を「乱鶯」に 以上

(編集部)



## 編集後記

◎昭和天皇の限り無き御仁慈・御遺徳に對する日本国民敬慕の念は、日本人の心を失つた一部少数の人々は別として、恐らく永久に消えることのない深い思いであると確信致します。

この思いを子々孫々に残す術としては、嘗て明治天皇に對する国民敬慕の念が凝つて明治神宮の創建と成つたように、一日も早い昭和神宮の創建こそ最も望ましいものと痛感します。

この問題について、元海兵七二期、現「天降りの日宮座主」小島末喜先生が日本国民としての赤誠を披歴しております。「昭和神宮創建提唱と殉死者」がそれであり、熟読して頂き、相共に之が實現に協力の實を挙げたいと念願致します。

◎岡山県支部副会長、青木守夫先生の「防衛態勢の確立につき提言」の所論は、前号掲載の堀江会長「日本の将来を思う」

(二)に詳細解説された、我が国安全保障確立のための具体的施策と軌を一にするものでありまして、今日迄連盟が機会有る毎

に強調して来たものであり、今後も之が實現に向つて最善の努力を傾注すべき問題であります。注目をお願いします。

◎去る六月四日の早朝に生起した、北京天安門事件の目を覆いたくなる惨劇は、共産主義政権の本質と實態を余すところなく世界の人々に見せ付けた、全く弁明の余地の無い事象であり、心ある人々の魂を氷らせるような事態で、到底、良心の有る人間の所業とは信じられないのであります。

この問題について、連盟顧問の扇貞雄先生と同じく顧問の福井工業大学教授、森本真章先生がその実態の分析と之に對処すべき日本の方策を強調されておられます。

「北京天安門広場事件に對する我が日本の対応を訴う」と「天安門の惨劇に想う」の二編であります。しっかり読んで頂き、共産主義とその政権の在り方を再確認、我が國が未来永劫之に毒されない心構えと施策の實行を夢忘れてはならないと強く強く肝に銘ずる次第であります。

◎各支部の活動状況を速報して頂く地方だよりのご協力については前にも屢々お願い致しましたとおり、ご提出の玉稿は総て

誌に掲載しております。これは本部の年度事業報告の基となるものであり、又、他の支部にとつても何かと参考に成るものと考えるからであります。

事業の都度総てご協力頂くところと、今日迄一回もご協力頂けない支部とがあります。年度を通じ何の活動もして居らないところは別として、何等かの活動をされている支部のご協力を重ねてお願い致します。

◎郷友誌購読のお申込みは振替で。

## 郷友

(第三十五卷第十号)  
(通巻第四百十六号)

発行兼編集人 赤羽根 徹とほ  
発行所 社団法人日本郷友連盟

〒一六〇 東京都新宿区若葉一

丁目二十一番地

電話(34) 四三八六

(35) 二三四一・二三四二

毎月一回一日発行

定価・一部二百六十円(送料共)

振替口座・東京四一七一八七七

印刷所 共同印刷株式会社

〒一一二 東京都文京区小石川四

の十四の十二

電話・案内台(817) 二一一一

# 帝國陸軍編制總覽

元大本营參謀 井本熊男 監修  
元防衛庁戦史編纂官 森松俊夫(前篇)  
戦史研究者 外山操(後篇)  
上法快男 企画

明治建軍以来の官衙、軍隊、学校、特務機関等を概説しその編制と主要人事を網羅  
戦闘序列を重視し、編制史や戦争史を時代区分に応じ表現する画期的な手法を採用  
常備部隊配備表、平時編制と戦時編制の区分图等豊富な図表・充実した別冊大「索引」  
四六判上製皮装函入/一五〇〇頁/七万円

**秘録 石原莞爾**

横山巨平著 世界最終戦論、東亞連盟論を展開し、戦争からの解放を絶叫し続けた奇才石原莞爾の全貌 3500円

**秘録 板垣征四郎**

刊行会編 王道楽土の建設を全世界に宣明し、その責を負って毅然として刑死した板垣大将の全足跡! 5000円

**陸軍 大学 校**

稲葉正夫監修 上法快男編 陸軍最高の人的能力開発機関 陸大の沿革と全貌を説明、関連資料多数収録 4500円

**陸海軍将官人事総覧 陸軍篇 全二巻**

上法快男監修 陸軍篇(陸士四十五期迄) 15000円  
外山操 海軍篇(海兵五十八期迄) 13000円  
全将官及び主要軍人の履歴を年月日迄収録した大資料!

芙蓉書房出版

文京区弥生2-1-11 ☎03-8131-4466  
振替 東京61351361 出版目録無料送呈

初回は切手300円で見本誌を送ります。

実物交換会誌

旧日本陸軍・海軍 **実物**

# 軍装品

■出品500点以上 ■定価500円 ■10日発行

旧軍隊関係の品物、何でも現金化します

代表者 浦田雅治

交換誌 **襪** S、係

〒710 岡山県倉敷市鶴形2-5-15  
郵便振替口座 岡山6-11331

☎0864-22-9383



# THE TOSHO BEAUTY SYSTEM

美のオアシスを求めて



東照本社ビル

## BEAUTY

美しく生きる、女性の誰かが想い、望んでいること。

## FUNDAMENTAL

つややかな肌、いきいきとした表情、豊かな心。

## PURSIT

外的な美しさ、内面的な美しさ、全ての要素を得た真の美しさ。

## ORGANIZATION

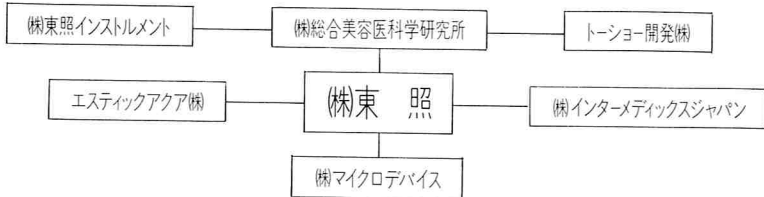
技術、設備、信頼は強力な企業体制が支えています。

美のオアシスへいざなうこと—— それが、わたしたち東照の使命です。



## TOSHO GROUP

関連会社



株式会社 東照 東京都渋谷区神宮前6-19-20 第15荒井ビル TEL.(03)407-1241

TOSHO  
CORPORATION  
TOKYO JAPAN